

第1章 すべての市民の力を合わせた広く開かれたまちづくり

1 市民が主体となったまちづくり

【政策の基本的な考え方】	市民と行政が同じ目線で共通の課題に取り組むための仕組みをつくる。
【総括の視点】	市民が市政に参加しやすい環境づくり・まちづくり団体の組織強化
総括	<p>・市民が市政に参画しやすい環境づくりを図るため、「市民対話」を重点的に継続して進め、市民とのコミュニケーションの機会が大幅に広がった。今後は、特に中学生、高校生をはじめとする若年層との対話をより進める必要がある。さらに若者の提案を施策として実現できる仕組みづくりが重要と考える。そのためにも、幅広い年齢層へ向けた情報発信ツールの多チャンネル化が必要である。</p> <p>・平成14年度から実施してきた「わがまち助成事業」によって、地域活動に対する住民意識の向上および自主的なまちづくり活動が活発となり大きな成果があった。今後は、まちづくり活動が持続可能なものとなるよう、補助金の有無に関わらず活動を進めていけるような観点からの支援も行っていく必要がある。</p>

1 市民の市政への参画推進

重点項目	① 市長となんでも語ろう会の充実(若者世代との対話促進・様々な女性グループとの対話推進)	所属									
	② パブリック・コメントの活用	未来創造課									
	【これまでの取組】		「各地区と市長と語る会」、「中・高校生と市長と語る会」、「各種団体等と市長と語る会」等を毎年度開催し、いただいた意見や提案を市政へ反映してきた。市が策定するすべての計画案について、市HP等を通じてパブリック・コメントを実施し、いただいた意見を計画へ反映してきた。								
	【今後の方向性】		SNSなど通信ツールを最大限活用することで、市民とのコミュニケーションの機会をさらに広げるとともに、地域課題等へスピーディーに対応できる体制づくりを進める。市民の意見・提案については、特に若い人たちの提案が実現できる仕組みを持った政策運営を進めることで、若者のまちづくりへの参画意欲を高める。パブリック・コメントは、計画策定の中間段階で実施することで、市民参画意識を高める。								
	【関連する個別計画】		勝山市地方創生総合戦略								
	③ 地区からの要望事項の整理と計画的対応	所属									
	【これまでの取組】	総務課									
	【今後の方向性】		区からの要望は対応できるものから随時各担当課で対応する。								
	【関連する個別計画】	なし									
	④ 公共施設の維持管理に関する市民の参加促進(道路維持補修(原材料支給)の推進・河川美化活動補助金の拡充・公園・道路等清掃活動への支援継続)	所属									
【これまでの取組】	都市建設課										
【今後の方向性】		これまでの取組の継続と現状を踏まえ、参加団体の増加を促し支援を継続していく。破損や危険箇所に関する市民からの情報を、即時に活かす維持管理システムを構築する。									
【関連する個別計画】	なし										
施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
	「各地区と市長と語る会」における前年度要望件数に対する達成率	H27	R02	目標	—	50%	51%	52%	53%	達成	総務課
		56%	53%	実績	47%	62%	51%	67%	59%		
	住民による公園・道路・河川の清掃維持管理事業への参加団体数	H27	R02	目標	86団体	87団体	89団体	91団体	93団体	達成	都市建設課
85団体		93団体	実績	96団体	96団体	93団体	86団体	98団体			

2 市民活動の推進

重点項目	① ボランティア活動に関するシーズ(したい人)とニーズ(必要な人)をマッチングする仕組みづくりの検討	所属
	【これまでの取組】	総務課
	【今後の方向性】	
	【関連する個別計画】	なし
	② 「勝山市市民活動ネットワーク」の活動支援	所属
	③ ジオパーク拠点施設、ジオサイトの設定	
	④ 「勝山市エコミュージアム協議会」と協働した市民提案、市民審査型助成事業の継続	
	⑤ ジオパークガイドの養成と活用	
	⑥ エコミュージアム文化財の検討	
	⑦ エコミュージアムにより再発見した遺産のデータベース化	
【これまでの取組】	平成14年より実施しているわがまち助成事業により、地域資源の発掘がコミュニティビジネスに発展するなど市民によるまちづくり活動の推進を図った。	
【今後の方向性】	市民自らが企画、実施するまちづくり活動に対し、令和2年度よりジオパーク魅力活用事業を実施することにより、市民活動を推進していく。引き続き実践的な内容のガイド養成講座を実施し、ガイドの人材育成を推進していく。	
【関連する個別計画】	恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進実施計画	

施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
	ジオパークガイドの出動要請件数	H27	R02	目標	200件	210件	220件	230件	240件	達成	ジオパークまちづくり課
		161件	240件	実績	240件	613件	447件	344件	469件		
	ジオパークガイド養成講座の受講者人数(平成28年度からの累計)	H27	R02	目標	8人	16人	24人	32人	40人	達成	ジオパークまちづくり課
—		40人	実績	16人	45人	59人	75人	75人			

3 広報の充実

重点項目	① 広報紙、お知らせ版、公式ホームページ、SNS等による正確・迅速な情報提供の充実										所属
	② 新たな技術やツールを活用した行政情報の発信										総務課
	③ 勝山市公式ホームページのリニューアル(ユニバーサルデザイン、多言語化等)										
	【これまでの取組】	読みやすい広報紙制作に努めたほか、公式ホームページ、各SNSによる積極的な情報発信に取り組んだ。									
	【今後の方向性】	広報紙の多言語化や特集記事の充実に取り組む。また、公式ホームページや各SNSによる情報発信の強化に取り組む。									
	【関連する個別計画】なし										

施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
					H27	R02	目標	570,000件	580,000件		
「勝山市ホームページ」への年間アクセス数		H27	R02	目標	570,000件	580,000件	600,000件	620,000件	640,000件	達成	総務課
		564,000件	640,000件	実績	556,804件	642,129件	624,933件	626,513件	697,451件		
公式Facebookへの「いいね」の数		H27	R02	目標	1,285	1,435	1,585	1,735	1,885	未達成	総務課
		1,134	1,885	実績	1,300	1,377	1,428	1,463	1,545		

4 情報公開の推進、個人情報の保護

重点項目	① 情報公開制度の適正かつ円滑な運用										所属
	② 個人情報と特定個人情報の組織的安全管理措置の徹底										総務課
	③ マイナンバーカードの多目的利用(住民票等のコンビニ交付など)の検討・推進										
	【これまでの取組】	個人情報の安全管理を徹底しつつ、適正に情報公開制度を運用するとともに、マイナンバーカードの多目的利用を推進するため、カードの普及を図った。									
	【今後の方向性】	各公民館でも交付申請を受け付けるなどマイナンバーカードの普及を推進する。									
	【関連する個別計画】なし										

2 効率的、効果的な行財政の運営

【政策の基本的な考え方】	多様化・高度化する行政需要など時代の変化に柔軟に対応できる効率的・効果的な行財政運営を推進する。									
【総括の視点】	健全な財政基盤の確立および財源の確保・各種施策の評価と効果検証・公共施設等の効率的・効果的な運営、維持管理									

総括

・健全な財政基盤の確立を図るため毎年度実施している中期財政見通しについて、令和元年度の見通しでは、財政調整基金残高が、標準財政規模の10%の規模を確保できる見込となっている。しかしながら、今後の人口構造の変化は、社会保障をはじめとする財政需要に大きな影響を与えることから、施策や事業の選択と集中により費用対効果をさらに高める必要がある。

・財源の確保については、ふるさと納税制度の利用促進、クラウドファンディングの活用、市税および各種使用料等の確実な徴収などを積極的に行い成果を上げてきた。今後も、毎年度プライマリーバランスを重視した適正な財政運営を図っていく必要がある。

・各種施策の評価と効果検証について、第5次総合計画においては、市長による政策ヒアリングならびに総合行政審議会による政策基本目標管理の外部評価を通じた政策効果の把握・分析を行い、PDCAサイクルによる政策の進行管理を行ってきた。今後、さらに効率的、効果的な行財政運営を図るため、次期総合計画では、『SDGs』を目標達成のツールとして活用し、「ゴール(最終目標)」、「ターゲット(行動目標)」、「インディケータ(施策指標)」を明確に関連付けした上での進行管理を行う。

・公共施設等の効率的、効果的な運営と維持管理を図るため、平成28年度に公共施設等総合管理計画を策定し公表した。また、固定資産台帳の情報を施設カルテに取り込み充実を図ったほか、公共施設現況調査を作成し、類似施設ごとのコスト等の比較検討を可能にした。今後人口減少、少子高齢化が進む中、人口構造の変化を見据えた総量の縮減および施設の再配置について、引き続き検討を行っていく必要がある。

1 政策基本目標管理および行財政改革の推進

重点項目	① PDCAサイクルによる政策基本目標管理の充実・強化										所属
	② 勝山市総合行政審議会による政策基本目標管理の外部評価実施										未来創造課
	③ 第5次勝山市総合計画(改定版)を基本とした第2次勝山市行財政改革実施計画の改定と進行管理										
	【これまでの取組】	第5次勝山市総合計画は、基本計画に掲げた「重点施策(施策事業)」について、政策ヒアリング及び予算査定を通じたPDCAサイクルにより進行管理を行ってきた。また、総合行政審議会による政策基本目標管理の外部評価結果を通じた政策効果の把握・分析を行い、施策へのフィードバックを行ってきた。									
	【今後の方向性】	現在策定を進めている第6次勝山市総合計画の政策基本目標管理は、計画に掲げた「基本政策」について、関連事業の予算査定や政策ヒアリングを通じたPDCAサイクルによる進行管理を行う。また、勝山市総合行政審議会からは基本政策の達成度の外部評価を受ける。次期勝山市行財政改革実施計画「令和の市役所改革」(計画期間:令和3年度~6年度)においては、DX、働き方改革による仕事のやり方、組織のあり方、市民との関わり方を根本的に見直し、行政課題に柔軟に対応できる体制を整えることで、第6次総合計画を着実に推進するための土台をつくる。									
	【関連する個別計画】勝山市行財政改革実施計画「令和の市役所改革」										

施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
					H27	R02	目標	—	75%		
行財政改革実施計画における実施項目達成率		H27	R02	目標	—	75%	78%	79%	80%	達成	未来創造課
		73%	80%	実績	73%	—	—	—	83.3%		

2 公平・適正な税制運営等による歳入の確保

重点項目	① クラウドファンディングをはじめとした新たな財源確保方策の活用										所属
	② ホームページ等による全国に向けたふるさと納税のPRの強化										商工観光・ふるさと創生課
	【これまでの取組】	ストーリー性があるクラウドファンディングの実施及びふるさと納税プロジェクトチームの企画によるお礼品の充実により納税額を増やした。									
	【今後の方向性】	ふるさと納税参加事業者の増加及びお礼品を充実し納税額の増加を図る。									
	【関連する個別計画】なし										
重点項目	③ 広報紙等による市民への市税に関する情報提供の拡充										所属
	④ 航空写真等による家屋台帳、土地台帳、公図等の整備										市民・税務課
	【これまでの取組】	市税に関する情報を提供してきたとともに、航空写真を撮影し、固定資産税の正確な賦課を図るなど、公平・適正な税制運営を図った。									
	【今後の方向性】	引き続き、市税に関する情報を提供するとともに、公平・適正な税制運営に取り組み歳入の確保を図る。									
	【関連する個別計画】なし										

施策指標	内容		改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属	
		クラウドファンディング実施件数	H27	R02	目標	1件	3件	3件	4件	5件		未達成	商工観光・ふるさと創生課
		—	5件	実績	1件	2件	2件	3件	2件				
	ふるさと納税額	H27	R02	目標	18,500千円	26,000千円	34,000千円	42,000千円	50,000千円		達成	商工観光・ふるさと創生課	
		14,992千円	50,000千円	実績	19,638千円	21,621千円	34,556千円	52,398千円	73,903千円				
	市税収納率(現年度、国民健康保険税除く)	H27	R02	目標	98.9%	99.0%	99.0%	99.1%	99.1%		達成	市民・税務課	
		98.9%	99.1%	実績	99.0%	99.3%	99.4%	99.4%	—				
3 効率的・効果的で持続可能な財政運営													
重点項目	① 中期財政見通しに基づく効率的・効果的な財政運営の推進											所属	
		【これまでの取組】	当初予算編成前に中期財政見通しを作成し、翌年度当初予算を編成した結果、財政調整基金残高について、望ましいとされている標準財政規模の10%を維持し、効率的・効果的な財政運営を推進した。										財政課
		【今後の方向性】	これまでと同様、毎年、中期財政見通しを作成し、継続して効率的・効果的な財政運営を推進していく。										
		【関連する個別計画】	なし										
		② 入札制度改善の継続的な実施 ③ 総合評価落札方式の推進 ④ 電子入札の導入検討 ⑤ 公共施設用地地代の均衡化											所属
	【これまでの取組】	入札制度等改善検討委員会を毎年開催し、入札制度の改善を継続的に行っている。										監理・防災課	
	【今後の方向性】	令和4年からの電子入札制度の導入に向けて準備を行う。											
	【関連する個別計画】	なし											
4 公共施設の効率的運用													
重点項目	① 施設の機能・役割の見直しによる、統廃合を含めた施設の再配置の検討 ② 公共施設等の保全計画に基づく修繕の実施 ③ 公共施設等の適切な維持管理と利活用の徹底 ④ 公用車のさらなる集中管理化 ⑤ 公用車へのエコカーの導入の推進 ⑥ 指定管理者制度等の導入の推進											所属	
		【これまでの取組】	予約システムを活用し、集中管理車の空き時間を見える化し車両の効率的な運用に取り組むことで車両数を削減した。										監理・防災課
		【今後の方向性】	積極的にエコカーの導入を進める。										
		【関連する個別計画】	第2次勝山市行財政改革実施計画										
		⑦ 指定管理者制度等の導入の推進											
施策指標	内容		改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属	
	公用車の中に占めるエコカーの台数		H27	R02	目標	7台	7台	8台	8台	9台	達成	監理・防災課	
			7台	9台	実績	7台	7台	10台	10台	10台			
5 行政組織の効率的運用													
重点項目	① 人事評価制度の推進 ② 組織目標管理の推進 ③ 効率的な組織の再編 ④ 相互協力体制の強化 ⑤ 職員研修の充実 ⑥ メンタルヘルスケア制度の確立 ⑦ 障がい者雇用の促進											所属	
		【これまでの取組】	人事評価制度や各種職員研修の実施により職員の資質を高めるとともに、組織・機構の見直しを適宜行うことにより効率的な組織運営を図った。										総務課
		【今後の方向性】	制度の充実等により人材育成の推進や組織の活性化を図るとともに、社会情勢等に即した効率的な組織の再編を進める。										
		【関連する個別計画】	勝山市障がい者活躍推進計画、勝山市特定事業主行動計画										
		⑧ 障がい者雇用の促進											
施策指標	内容		改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属	
	メンタルヘルス研修の職員受講率		H27	R02	目標	44.0%	48.0%	52.0%	56.0%	60.0%	—	総務課	
			41.8%	60.0%	実績	22.6%	53.8%	58.8%	43.2%	—			
	勝山市役所における障がい者雇用率 ※法定雇用率2.3%(平成30年4月より2.5%)		H27	R02	目標	—	2.7%	2.8%	2.8%	2.8%	達成	総務課	
			2.7%	2.8%	実績	2.7%	2.7%	2.7%	2.8%	3.8%			
	市民・税務課窓口業務に関する市民満足度		H27	R02	目標	80.0%	82.0%	84.0%	86.0%	88.0%	未達成	市民・税務課	
			79.7%	88.0%	実績	82.2%	実施せず	84.1%	実施せず	実施せず			

重点項目	6 広域行政の推進										
	① 大野・勝山地区広域行政事務組合が行う各種事業への参画										所属
	【これまでの取組】		ごみ処理施設「ビュークリーンおくえつ」の運営、奥越青少年愛護センターの運営、介護認定審査会の運営、広域観光推進等の広域行政事務事業を推進してきた。								未来創造課
	【今後の方向性】		広域的に実施する効果を見極め、新たな行政ニーズに柔軟かつ的確に対応できる事業を推進する。								
	【関連する個別計画】 勝山市地方創生総合戦略										
② 奥越圏域全体のごみ排出量削減										所属	
③ 勝山・永平寺衛生管理組合によるし尿処理業務の円滑な運営に向けた整備										環境政策課	
【これまでの取組】		広域事務組合及び大野市・勝山市の担当者会議で協議を実施するなどごみ減量への取り組みを推進した。関係機関を調整し下水処理場での受入施設整備の事業化を行い、し尿処理業務を円滑に運営した。									
【今後の方向性】		引き続き担当者会議で協議を行い、ごみ減量への取り組みを推進する。し尿処理業務は施設整備に向けた下水道事業の法手続きを行い、令和5年度事業着手を目指す。									
【関連する個別計画】 一般廃棄物処理実施計画											

3 多様な交流活動の推進										
【政策の基本的な考え方】		勝山市の魅力の幅広い発信および多様な交流を深めることにより、人々の多様な価値観の中から「選ばれるまち」を目指す。								
【総括の視点】		勝山ファンの拡大・恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークの推進・国際交流および都市間交流(国内)の推進・U・Iターンの推進・官学連携事業を活用した行政課題の克服								

・勝山ファンの拡大に向け、市出身者を始めとする勝山市に縁のある方々や、市外に在住しながら愛着を持ち続けてくださる方々に登録していただく「ふれあい市民」制度を導入し、これまで市出身者、県外各勝山会、かつやま大使などさまざまな方々と交流を深め、積極的な情報発信を行ってきた。また、勝山市を舞台にした映画製作への支援・協力のほか、平成30年度には日本大学芸術学部と連携してふるさと帰郷ムービーを製作、公開するなど、勝山市の魅力を全国に広くPRしてきた。人口減少が進む中、勝山市の魅力が多様なツールを活用して幅広い年齢層へ発信し、外からの「交流人口」および「関係人口」を拡大させていくことが重要となる。

・平成21年10月、「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」が日本ジオパークに認定され、これまで恐竜・恐竜化石メインテーマとした取り組みを進め、地域住民によるジオパークを意識した主体的なまちづくり活動や、ジオパークの3要素のなかの「保護・保全」「教育・研究」に関して一定の成果があった。今後は、もう一つの要素となる「持続可能な地域振興」の部分について、ジオパーク推進協議会を中心に、様々な企業や団体と連携したジオツアーや商品開発を進めていくとともに、地域ブランディング戦略の立案も検討していく必要がある。

・国際交流については、市国際交流員を中心に小学校訪問、国際交流サロンなどを通じ多様な活動を推進してきた。今後は、市内で生活する外国人に対応すべく、行政・生活情報の多言語化、相談体制の整備の充実が求められる。市としては、多文化共生に関する総合部署を早急に設置し、庁内で定期的に情報共有と連携を図り、市民のニーズに応じて事業推進していく必要がある。平成25年度から民間団体の協力を得て青少年の海外派遣を継続実施してきた。今後も持続していくためには、実施時期および交流内容の再検討が必要である。国内の都市間交流については、これまで金沢市および小浜市を対象に小学生を中心とした交流を実施してきた。今後も県内外の自治体との一層の連携・交流を促進し、関係人口の増加を図る必要がある。

・U・Iターンの促進に向け、これまであらゆる機会を捉えきめ細かな情報提供を実施するとともに、庁内に移住コンシェルジュを設置し、移住希望者に対する相談窓口を強化した。また、平成29年度に移住定住者向けの補助制度を創設し、移住者のニーズに合わせた見直しを図りながら事業を推進してきた。今後は、多様な方法による効果的な情報発信に努めるとともに、移住希望者のミスマッチを防ぐための支援策を研究・実施していく必要がある。

・官学連携については、これまで、関西学院大学、福井工業大学、福井大学と連携協定を締結し、委員や講師の派遣、インターンシップの受け入れなどの交流を推進してきた。今後は、勝山市が抱える実際の地域課題について、市民と学生が協働しながら課題解決に取り組み、解決策を提案する取り組みを通じ、学生にとっても勝山市を自己の研究フィールドとして活用できるなど、市と大学相互にメリットがある連携事業を立ち上げていく必要がある。

重点項目	1 恐竜を活かしたまちづくり(恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークの推進)										
	① ジオサイト等の地域の遺産を活かした教育の普及とジオツーリズム活動の推進										所属
	② 市民に対するジオパークのわかりやすい周知										ジオパーク まちづくり課
	③ ジオサイト等の遺産の保全・保護・整備とその活用										
	④ 恐竜渓谷ルートの整備・活用										
⑤ 国内外にある他のジオパーク地域との連携											
【これまでの取組】		ジオパークツアー、学習会の開催等により、ジオサイト等の教育の普及とジオツーリズム活動を実施し、補助事業による地域住民へのジオサイト等の保全・保護・整備に取り組み、ジオパークの推進を図った。								未来創造課	
【今後の方向性】		引き続き地域の遺産を活かした教育の普及とジオツーリズム活動の推進及び市民に対するジオパークの認知度向上を図る。									
【関連する個別計画】 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進実施計画											

施策指標	内容		改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
	行政、民間主催のジオツアーへの参加者数(平成23年度からの累計)		H27 2,134人	R02 4,000人	目標 実績	2,400人 2,453人	2,700人 2,858人	3,000人 3,012人	3,500人 3,435人	4,000人 3,469人	未達成	ジオパーク まちづくり課

重点項目	2 国際交流の推進										
	① 市民や市民団体による英語圏の国との交流事業の実施										所属
	② 国際交流員が企画・実施する、幅広い年齢層の市民や市内在住外国人を対象とした国際交流講座・イベントの充実										生涯学習・ スポーツ課
	③ 中国との交流推進										
	【これまでの取組】		英会話教室、日本語学習広場、国際交流サロン等を実施し、国際交流を推進した。								
【今後の方向性】		国際交流員を中心とした英語圏の国との交流、市内在住外国人との交流、多文化共生を継続し国際交流を推進する。									
【関連する個別計画】 なし											

施策指標	内容		改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
	国際交流事業への参加者数		H27 152人	R02 160人以上	目標 実績	124人 124人	130人以上 145人	140人以上 162人	150人以上 166人	160人以上 87人	未達成	生涯学習・ スポーツ課

3 都市間交流(国内)の推進														
重点項目	① 国内および県内自治体との多様な都市間交流の推進										所属			
	【これまでの取組】		金沢市との小学生中心の行事等による都市間交流を推進した。								生涯学習・スポーツ課			
	【今後の方向性】		金沢市との関係各課と連携しながらの都市間交流を継続し推進していく。											
【関連する個別計画】なし														
施策指標	内容				改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
	都市間交流事業および活動等への参加市民の数				H27	R02	目標	52人	55人以上	60人以上	65人以上	70人以上	未達成	生涯学習・スポーツ課
					44人	70人以上	実績	52人	83人	101人	32人	0人		
4 ふれあい市民との交流														
重点項目	① 情報発信(市情報誌の送付)等を通じたふれあい市民との継続的な交流の維持										所属			
	② ふれあい市民への登録に向けた勧誘強化										商工観光・ふるさと創生課			
	③ かつやま大使との継続的な交流や大使やふるさとかつやまインフォメーションを通じた勝山市のPR推進													
	④ 東京勝山会、関西勝山会 等への情報提供や市施策等への協力依頼													
【これまでの取組】		既存のふれあい市民への情報発信により交流を継続するとともに、高校卒業時や成人式においてふれあい市民への登録案内など新規登録者数の増加に取り組んだ。								生涯学習・スポーツ課				
【今後の方向性】		ふれあい市民のあり方を精査し、関係人口確保につなげる材料として活用する。引き続き勝山会等への情報発信や市施策等への協力依頼をしながら、ふれあい市民との交流を継続する。												
【関連する個別計画】なし														
施策指標	内容				改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
	ふれあい市民の登録者数				H27	R02	目標	1,590人	1,610人	1,630人	1,650人	1,670人	未達成	商工観光・ふるさと創生課
					1,617人	1,670人	実績	1,590人	1,588人	1,611人	1,612人	1,473人		
5 U・Iターンの推進														
重点項目	① 勝山市出身の若者やアクティブシニア等へのふるさと回帰の働きかけ(きめ細かな情報提供・強化)										所属			
	② 地方創生の流れの中で国の機関や県等と連携した事業の展開										商工観光・ふるさと創生課			
	③ 市内企業等への定住情報提供による市外からの就職希望者へのPR													
	④ 市内小中学生やその保護者への地元企業のPRによる市内への就職促進													
	【これまでの取組】		国や県等と連携し、大規模なU・Iターンイベントへの参加や市内企業紹介誌「いんころ」を制作することで、U・Iターンの増加に取り組んだ。								生涯学習・スポーツ課			
	【今後の方向性】		従来からの情報提供に加え、オンラインを活用した市内合同企業説明会などアフターコロナに対応した新たなPR対策を検討・実施する。											
	【関連する個別計画】勝山市地方創生総合戦略													
	⑤ 若い世代の市外への流出防止に向けた専門学校など誘致の検討										所属			
	【これまでの取組】		県立大学中期計画で示されている古生物学関係新学部の勝山市内誘致に向けて、県知事重要要望活動をはじめ、大学私学課との直接協議を行ってきた。								未来創造課			
	【今後の方向性】		長尾山総合公園内における新学部のキャンパス誘致を進める。											
【関連する個別計画】勝山市地方創生総合戦略														
⑥ お試し移住体験施設の設置										所属				
⑦ 移住定住のインセンティブとなる、新たな補助制度等の検討										商工観光・ふるさと創生課				
【これまでの取組】		U・Iターン者の声を確認しながら、補助金制度の創設や見直しを図ったことに加え、関係人口の創出に取り組んだ。												
【今後の方向性】		関係人口の創出・拡大を起点として移住までつながっていくよう、就職をはじめとした生活全体の支援を実施する。												
【関連する個別計画】勝山市地方創生総合戦略														
⑧ 定住化促進事業の推進										所属				
⑨ 鹿谷雇用促進住宅の取得検討										都市建設課				
⑩ U・Iターン者空き家住まい支援と多世帯同居支援の推進														
【これまでの取組】		転入者、多世帯同近居及び若年層を重視し住宅取得支援に取り組んだ。鹿谷雇用促進住宅は取得しなかったが、課題検討等を行った。												
【今後の方向性】		潜在的移住希望者の定着を実現するために、関連部署との連携を強化する。現状を把握し補助制度設計の調査、研究を行う。												
【関連する個別計画】なし														
施策指標	内容				改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
	市の支援を受けて転入した人の数(平成27年度からの累計)				H27	R02	目標	4人	12人	16人	20人	24人	達成	商工観光・ふるさと創生課
					3人	24人	実績	10人	61人	113人	169人	197人		
U・Iターン者、多世帯同居等への住宅取得等に関する補助件数				H27	R02	目標	10件	12件	14件	16件	18件	未達成	都市建設課	
				—	18件	実績	5件	6件	8件	10件	9件			
6 官学連携事業の推進														
重点項目	① 連携協定等締結大学(関西学院大学、福井工業大学、福井大学、福井県立大学)との人的・知的財産の相互活用など										所属			
	② 上記以外の大学との新たな連携に向けた交流推進										未来創造課			
	【これまでの取組】		関西学院大学、福井工業大学、福井大学と連携協定を締結し、おもに各種審議会委員への参画や講師の派遣、インターンシップの受け入れなどを実施してきた。											
	【今後の方向性】		地域おこし協力隊や外部人材などと連携し、大学シンクタンクを活用した行政課題への取り組みを進める。連携協定の有無に関わらず、公募などによるマッチングを行う。毎年度実施するインターンシップについては、大学を指定せず、課題解決型インターンシップとして個別の学生を受け入れる。(インターネットと実地との併用)											
【関連する個別計画】なし														

施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
					目標	実績	目標	実績	目標		
	提携大学との官学等連携による事業数(平成23年度からの累計)	H27 136事業	R02 270事業	目標 実績	150事業 169事業	180事業 205事業	210事業 237事業	240事業 259事業	270事業 286事業	達成	未来創造課
7 シティプロモーションの推進											
重点項目	① 市民と協働による「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」のロゴマークを活用した勝山市のPR										所属
	【これまでの取組】	平成29年に「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」のロゴマークを活用した啓発活動のための補助制度を策定し、勝山市のPRを推進した。									ジオパーク まちづくり課
	【今後の方向性】	引き続き市民と協働し「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」のロゴマークを活用した勝山市のPRを推進する。									
	【関連する個別計画】 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進実施計画										
	② 「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」に代表される勝山市の魅力を全国に発信										所属
③ 地域ブランドの確立支援と全国への発信										商工観光・ ふるさと創生課	
【これまでの取組】	勝山市を舞台とした映画の制作を行った。また、移住促進動画、日本大学芸術学部と連携した勝山市PRショートムービーなどを制作した。										
【今後の方向性】	作成した動画を今後も活用するとともに、恐竜のみならず新たなブランドの確立を図り、勝山市のPRを推進する。										
【関連する個別計画】 なし											
施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
	地域ブランド調査における勝山市の魅力度ランキング (対象:1,000市町村)	H27 —	R02 460位以内	目標 実績	— 586位	550位以内 660位	520位以内 540位	490位以内 533位	460位以内 732位	未達成	商工観光・ ふるさと創生課
4 人権・男女共同参画社会の実現											
【政策の基本的な考え方】		一人ひとりが互いに人権を尊重し、男女がともに思いやり、責任を担い合うまちを目指す。									
【総括の視点】		人権教育など市民への啓発・男女共同参画の推進									
総括	<p>・人権教育の推進および市民への啓発を図るため、人権擁護委員と連携し、保育園、小学校、福祉施設等での人権教室の実施をはじめ、人権相談所の開設、「ありがとうメッセージ」の募集、人権講演会などさまざまな方法で市民への啓発に努めてきた。今後、人権教育については、様々な年代で幅広い分野での意識啓発を図り、特に普及が遅れがあると思われる課題や、注目を集めている課題についてスポットをあてて実施する必要がある。</p> <p>・市民の男女共同参画意識の向上を図るため、勝山市男女共同ネットワークと連携し、市民向けの講演会開催のほか、各種事業の実施や、地域での女性活躍へ向けて区長会への働きかけなどを行ってきた。市審議会等への女性登用率については、啓発活動を継続的に実施した結果、女性委員数は増加している。今後は、さらなる意識啓発を図るとともに、少子高齢化が進む中、特に地域コミュニティ活動における男女の役割について、住民同士で協議し、必要などところの見直しに対する支援が必要である。</p>										
1 人権尊重の社会づくりの推進											
重点項目	① 人権の花運動の推進等による人権啓発の推進										所属
	② 人権教育の充実										未来創造課
	【これまでの取組】	人権擁護委員と連携し、保育園、小学校、福祉施設等における人権教室の実施をはじめ、人権相談所の開設、「ありがとうメッセージ」の募集、人権講演会などさまざまな方法で市民への啓発に努めてきた。									
	【今後の方向性】	特に幼児期～児童に対する啓発活動をきめ細かく実施する。SNSの普及が進む中、学校、家庭と連携しながら情報モラル教育を重点的に進める。									
【関連する個別計画】 勝山市地方創生総合戦略											
施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
	市民向け人権啓発活動の年間開催回数	H27 20回	R02 30回	目標 実績	22回 24回	24回 24回	26回 34回	28回 26回	30回 14回	未達成	未来創造課
2 男女がともに思いやり責任を担い合う社会の実現											
重点項目	① 第2次勝山市男女共同参画基本計画の推進										所属
	② 女性活躍推進法の施行に伴う第2次勝山市男女共同参画基本計画の見直し										未来創造課
	③ 家庭・職場・地域における固定的役割分担意識の解消に向けた講演会の開催										
	④ 女性グループからの意見や提案を市政に反映する仕組みづくり										
	⑤ ワークライフバランスの推進に向けた働きかけ										
⑥ 子育て・介護しながら働く女性への支援											
【これまでの取組】	勝山市男女共同参画基本計画に基づき、市民の男女共同参画意識の向上を図るため、勝山市男女共同ネットワークと連携し、市民向けの講演会を開催したほか、各種事業の実施や、地域での女性活躍へ向けて区長会に対し働きかけなどを行ってきた。										
【今後の方向性】	引き続き男女の役割の意識解消を目指す取り組みを進める。今後は理念の啓発周知だけに終わらず、市民、企業等の実践を促すための仕掛けや支援策を実施していく。また、LGBTQ+をはじめとする多様な性に対する市民の理解を深める。										
【関連する個別計画】 勝山市男女共同参画基本計画、勝山市地方創生総合戦略											
施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
施策指標	市の審議会等への女性委員の登用割合	H27 31.9%	R02 40.0%	目標 実績	32.0% 31.6%	34.0% 32.0%	36.0% 29.7%	38.0% 32.0%	40.0% —	—	未来創造課
	男女共同参画に関する講演会・イベントにおける男性の参加率	H27 31.6%	R02 36.0%	目標 実績	32.0% 23.8%	33.0% 31.3%	34.0% 28.9%	35.0% 31.8%	36.0% —	—	未来創造課
	勝山市役所における管理職の女性割合	H27 18.8%	R02 20.0%	目標 実績	— 18.8%	19.0% 16.7%	19.0% 14.8%	20.0% 17.4%	20.0% 18.2%	未達成	未来創造課

5 各地区等の地域力向上の実現

【政策の基本的な考え方】	人口減少、少子高齢化が進む中、地域住民がいつまでも安心して暮らせ、次世代が生まれ育つことができるような各地区等の再生を支援する。
【総括の視点】	市民が主体となって進める地域づくりへの支援・若者や女性の地域への参画促進・共助機能の強化に向けた支援・地域の伝統文化継承への支援・新たな行政区の枠組み検討
総括	<p>・市内全10地区を対象にした「特色ある地域づくり事業」を実施することにより、各地区の住民による主体的な地域づくり活動への意識向上が図られた。本事業は令和2年度をもって終了するが、今後も各地区の持続可能なまちづくりのための取り組みに対し、どのような支援策があるか検討する必要がある。</p> <p>・少子高齢化が進む中、特に地域コミュニティ活動における若者や女性の参画の必要性が高まっている。「各地区と市長と語る会」においては住民・女性の参加促進を区長へ依頼し、多くの女性や若者の参加をいただいた。住民の意識は変わってきているものの、地区の事情などもあり、地域の意思決定の場への参画は若者や女性の占める割合が低い。今後は、若者や女性の地域間の参画について成功しているモデル地区も存在しているの</p> <p>で、参画方法についてケース紹介などわかりやすい方法で啓発に努めていく必要がある。</p> <p>・人口減少、少子高齢化等により、1集落内におけるコミュニティの維持が困難になることが危惧される中、災害時の共助意識の向上を目的に、各地区自主防災組織を中心とした避難訓練や避難所開設訓練、ボランティアセンター開設訓練などを継続的に実施してきた。今後は、各地区の要望を踏まえつつ、隣接した集落間による広域的な避難訓練等の防災訓練を実施し、地域間の相互連携による共助意識の向上を図る必要がある。</p> <p>・伝統文化の保存・継承への支援については、市や民間財団等の郷土芸能施設の整備に関する補助事業の情報提供や活用の奨励を行っているほか地域の歴史や伝統文化に関する講座を開催しているが、高齢化、後継者不足が課題となっている。今後は、青少年育成勝山市民会議での伝統文化に関する子どもたちへの体験型学習の推進、市民総合大学や公民館学級における伝統芸能の講座を継続的に開催し、後継者育成を働きかける必要がある。</p>

1 市民が主体となった地域力の向上

重点項目	① 市内10地区の主体的な地域づくり事業の推進	所属									
	② 地域が主体となったコミュニティビジネスへの支援	ジオパーク まちづくり課									
	【これまでの取組】		市民自らが主体となり、特色ある地域事業に取り組むための「地域力向上事業」及び「わがまち助成事業」による支援に取り組み、地域力の向上を図った。								
	【今後の方向性】		令和2年度で「地域力向上事業」が終了したが、「わがまち助成事業」を3年ごとに見直しながら、引き続き地域力の向上を図る。								
	【関連する個別計画】	なし									
	③ 共助機能の維持、強化に向けた地域間の相互連携への支援	所属									
	④ 若者や女性の地域の意思決定への参画促進	総務課									
	【これまでの取組】		行政協力員への女性の配置を目指したが、配置には至らなかった。								
	【今後の方向性】		地域の会議等に女性枠を設けるなど女性の参画を図る。								
	【関連する個別計画】	第2次勝山市行政改革実施計画									
	⑤ 地域が主体的に行う共同作業や共有施設の維持に対する支援	所属									
	【これまでの取組】	未来創造課									
	【今後の方向性】		道路や水路、公園などの公共施設の維持管理に対し、各区の地域住民の参加を求め、道路維持補修における原材料費の支給、河川美化活動への補助金及び公園・道路等清掃活動への支援を継続的に行ってきた。								
	【今後の方向性】	少子高齢化が進む中、地域のコミュニティ活動を維持していくため、複数の区や町内会等が一体となって行う共同作業に対する費用支援を行う。									
【関連する個別計画】	勝山市地方創生総合戦略										
⑥ 地域に伝わる伝統文化の継承に向けた支援	所属										
【これまでの取組】	生涯学習・スポーツ課										
【今後の方向性】		施策コード541「伝統文化の保存継承」項目に掲載									
【関連する個別計画】	なし										
⑦ 利用しやすい効率的な地域交通システムの構築	所属										
【これまでの取組】	環境政策課										
【今後の方向性】		施策コード421「利用しやすいバス体系の整備と利用促進」422「乗りやすい鉄道の整備と利用促進」項目に記載									
【関連する個別計画】	なし										
施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
	まちづくり団体・市民団体によるまちづくり活動件数 (平成23年度からの累計)	H27 165件	R02 270件	目標 実績	190件 191件	210件 216件	230件 242件	250件 266件	270件 288件	達成	ジオパーク まちづくり課

第2章 誰もが安心して暮らせる人にやさしいすこやかなまちづくり

1 健康のまち勝山の実現

【政策の基本的な考え方】	市民が主体となった健康増進への取り組みを支援することにより、すべての市民がいいきと元気に暮らすまちを目指す。
【総括の視点】	市民の健康づくり活動への支援・各種保健サービスの提供、充実
総括	<p>・市民の健康づくりへの意識向上を図るため、健康ポイントラリー事業等を実施し、運動や食生活などの良い生活習慣の確立や継続を支援している。今後も保健推進員、食生活改善推進員等と連携し、地域全体で運動や食生活改善等に取り組む気運をさらに高めていく必要がある。また、職域や民間企業と包括協定を結ぶなど連携し、市の健診や健康づくり事業、受動喫煙防止対策等について相互で周知徹底を図る必要がある。</p> <p>・各種保健サービスについては、乳幼児から高齢者までの健診、健康講座、各種相談等をきめ細かく実施してきた。健診において、乳幼児・妊産婦の受診率が高いが、成人のがん検診(肺・胃・大腸・子宮・乳)については、受診率アップに向けさらに工夫し、受診勧奨を行っていく必要がある。</p>

重点項目	1 健康づくり活動の推進										所属
	① すこやか勝山12か条の推進 ② 健康づくり自主グループや地区組織の支援・育成 ③ 市営温水プールの活用促進 ④ ウォーキングの促進 ⑤ 勝山市体育館「ジオアリーナ」を活用した健康増進事業の推進 ⑥ 健康の駅「湯ったり勝山」を活用した健康増進事業の推進										健康長寿課
	【これまでの取組】	コロナ禍での健康づくりとして、手洗いや体温測定等の新しい生活様式の推進、免疫力を高めるための健康行動の推進を主に健康ポイントラリー事業や広報での啓発による健康づくりに取り組んだ。地域での健康づくり活動は感染防止策をとり、訪問を中心に実施した。									
	【今後の方向性】	コロナ禍における個人が取り組む健康づくりとして、ポイントラリー事業を継続して実施する。また、感染防止策をとりながら地区組織と連携し健康づくり事業を実施する。									
【関連する個別計画】第4次勝山市健康増進計画											

施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属		
					目標	実績	目標	実績	目標			実績	目標
「健康寿命」の延伸		H27	R02		78.5歳	78.5歳	78.6歳	78.6歳	78.7歳	未達成	健康長寿課		
					78.46歳	78.44歳	77.95歳	78.50歳	-				
					男78.4歳	男78.7歳	83.9歳	83.9歳	84.0歳	84.0歳		84.0歳	達成
					女83.9歳	女84.0歳	実績	83.86歳	84.38歳	84.12歳		84.0歳	
健康チャレンジ事業の参加者数(平成27年度からの累計)		H27	R02		4,000人	6,000人	8,000人	10,000人	12,000人	未達成	健康長寿課		
					2,042人	12,000人	実績	4,846人	7,631人			8,171人	8,826

重点項目	2 保健サービスの充実										所属
	① 子育て世代包括支援センターの周知および充実 ② 乳幼児健診等を通じた母子保健事業の充実 ③ 健康増進事業、栄養指導の充実 ④ 生活習慣病予防(メタボリックシンドローム予防)の充実 ⑤ 高齢者の疾病重症化予防事業の実施 ⑥ がん検診のPRによる受診率の向上 ⑦ 定例相談実施による精神保健事業の充実 ⑧ 幼児への歯磨き教室実施等による歯科保健事業の充実 ⑨ 健康相談等の実施による結核予防、感染症対策の推進 ⑩ 各種予防接種事業の積極的なPRと接種率の向上 ⑪ 喫煙対策と受動喫煙防止に向けた取組みの推進										健康長寿課
	【これまでの取組】	乳幼児健診や各種健康増進事業を実施し、保健サービスの充実に努めた。なお、新型コロナウイルス感染症が拡大してからは、拡大防止策の周知と、コロナ禍における育児支援や心の健康づくり等に重点を置き取り組んだ。									
	【今後の方向性】	引き続き保健サービスを実施していくとともに、新型コロナワクチン接種を希望する人が安心して接種できるよう接種体制を確立する。また、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら健康づくりを推進していく。									
【関連する個別計画】第4次勝山市健康増進計画											

施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
					目標	実績	目標	実績	目標		
乳幼児健診の平均受診率		H27	R02		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	未達成	健康長寿課
					98.2%	100.0%	実績	98.7%	96.4%		
大腸がん検診受診者数		H27	R02		2,120人	2,140人	2,160人	2,180人	2,200人	未達成	健康長寿課
					2,101人	2,200人	実績	1,691人	1,560人		

2 安心して暮らせる長寿社会の実現										
【政策の基本的な考え方】	高齢者の自立および介護者への支援の充実を図り、高齢者が地域社会でいきいきと暮らせるまちを目指す。									
【総括の視点】	介護予防の推進・高齢者の生活支援サービスの充実									
総括	・介護予防の促進を図るため、地域包括支援センターにおいて、高齢者に関する相談対応や介護予防事業等を継続的に実施してきた。また、新たにフレイル予防啓発や認知症への支援体制整備等を推進したことで、高齢者の健康づくりが進み、要介護認定率が徐々に低下してきている。今後は、フレイル予防事業をさらに推進するとともに、高齢者自身が健康状態を把握し、自発的に健康づくりに取り組めるよう支援する必要がある。 ・高齢者が地域でいきいきと暮らせるよう、地域見守り協定事業所との連携強化やボランティア等の養成継続、高齢者の生きがいとなるような場を創出してきた。今後は、高齢者訪問を拡大し、一人暮らしだけでなく高齢者世帯についても訪問を行うなど、地域の困り事の情報を把握、ボランティア活動とのマッチング等を行い、見守り活動の強化を図っていく必要がある。									

重点項目	1 高齢者の生きがいと健康づくりの推進										所属
	① 高齢者の健康づくりの推進 ② 介護予防・生活支援サービスの充実 ③ 地域の高齢者見守り活動の推進 ④ 元気な高齢者によるボランティア活動や活躍の場の提供による生きがいづくりの推進 ⑤ 健康の駅「湯ったり勝山」を活用した介護予防や健康づくり事業の推進 ⑥ 高齢者福祉サービスの推進										健康長寿課
	【これまでの取組】	高齢者訪問等により、支援が必要な方を把握し、介護予防等につなげた。また、湯ったり勝山や地域等において介護予防事業を継続的に実施するとともに、新たにフレイル予防に取り組んだ。地域見守り協定事業所と連携し、地域の高齢者の見守り活動を推進するとともに、地域いきいきボランティア講座を実施し、高齢者が元気に活躍できるよう取り組んだ。									
	【今後の方向性】	感染症対策を踏まえた健康づくり・フレイル予防・介護予防を推進する。また、地域で生きがいをもって暮らしていけるようボランティア等の養成や活動の場の提供を継続する。									
【関連する個別計画】第7次 勝山市老人福祉計画・介護保険事業計画											

施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
	要介護認定率	H27	R02	目標	18.5%	18.5%	18.4%	18.4%	18.3%	未達成	健康長寿課
		18.6%	18.3%	実績	18.6%	18.6%	18.4%	18.4%	17.8%		

重点項目	2 高齢者介護体制の充実										所属
	① 多様化する高齢者のニーズに応じた介護サービスの推進 ② 地域包括ケアシステムの構築										健康長寿課
	【これまでの取組】	地域ケア会議や多職種連携研修会等を開催し、地域包括ケアシステムの強化に取り組んだ。介護人材確保奨励金交付事業により、介護人材の確保に取り組んだ。									
	【今後の方向性】	在宅医療・介護連携、地域ケア会議を推進するとともに、高齢者介護体制を充実するため介護人材の確保に取り組む。									
【関連する個別計画】第7次 勝山市老人福祉計画・介護保険事業計画											

施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
	居宅サービスおよび地域密着型サービス受給者の割合	H27	R02	目標	73.05%	73.35%	73.55%	73.85%	74.05%	未達成	健康長寿課
		72.85%	74.05%	実績	73.80%	73.76%	74.20%	74.76%	74.75%		

重点項目	3 高齢者総合相談・支援の充実										所属
	① 地域包括支援センター「やすらぎ」のPRと総合的な相談機能の強化 ② 介護者の負担軽減と健康保持に向けた対策の充実 ③ 高齢者の権利擁護と虐待防止に向けた事業の推進 ④ 成年後見制度の周知と活用										健康長寿課
	【これまでの取組】	地域包括支援センターについて周知を行い、相談対応を行った。医療コーディネーターや認知症地域支援推進員を配置するとともに、他機関と連携しながら相談対応を行った。また、虐待や成年後見制度に関する普及啓発を行うとともに、相談対応を行った。									
	【今後の方向性】	地域包括支援センターについてさらに周知し、関係機関と連携しながら相談体制を強化する。									
【関連する個別計画】第7次 勝山市老人福祉計画・介護保険事業計画											

施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
	地域包括支援センター「やすらぎ」で受けた年間相談件数	H27	R02	目標	2,374件	2,394件	2,414件	2,434件	2,450件	未達成	健康長寿課
		2,354件	2,450件	実績	2,138件	2,411件	2,636件	2,240件	1,768件		

3 福祉のまちづくりの実現										
【政策の基本的な考え方】		すべての人が地域で安心して暮らせ、あらゆる分野で社会参画できるまちを目指す。								
【総括の視点】		障害者、生活困窮者等の生活自立支援								
総括	・障害、生活困窮、引きこもり、就労など、生活支援に関する幅広い相談受付をする中で、継続的に福井県立大学と連携したケース検討会を行ったり、各分野の相談機関と連携しながら支援にあたっている。人口減少、少子高齢化が進展する中で、複雑化、多様化している課題に対応するため、今後は、専門職員の確保、対応困難な個別ケースに対して、関係機関と柔軟かつきめ細やかで切れ目のない支援を進めるために、さらなる窓口体制の強化および周知ならびに職員の資質向上が重要となる。									

重点項目	1 障がい者福祉の充実										所属
	① 県立大学看護福祉学部とのケース検討会等の開催による連携 ② 障害者自立支援協議会を活用した障がい者支援の連携体制づくり ③ 障害者福祉計画(障害者計画・障害福祉計画)に沿った事業の推進 ④ 障がい者の就労支援の推進 ⑤ 相談支援体制の安定的な運営										福祉・児童課
	【これまでの取組】	奥越地区障害者自立支援協議会の中で情報共有、連携を図り、地域の中で障害者(児)が自立した生活と社会参加ができるよう支援に努めた。困難事例の相談が増えており、アウトリーチによる相談、関係機関との連携に努めた。									
	【今後の方向性】	障害の重度化と障害のある人の介護者の高齢化が進む中で、ニーズの複雑化・多様化に対応できる体制をつくり障がい者福祉の充実を図る。									
【関連する個別計画】障害者福祉計画、障害福祉計画・障害児福祉計画											

施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
	福祉施設からの一般就労移行者数(平成24年度からの累計)	H27	R02	目標	5人	6人	7人	7人	7人	達成	福祉・児童課
		4人	7人	実績	12人	13人	19人	23人	24人		
勝山市障害者生活支援センターへの相談者数	H27	R02	目標	171人	173人	175人	177人	179人	未達成	福祉・児童課	
	169人	179人	実績	201人	252人	174人	148人	94人			

2 生活困窮者への支援													
重点項目	① 生活保護世帯の稼働年齢層に対する就労支援事業の強化 ② 生活困窮者自立支援事業の継続 ③ 生活保護安定運営対策事業の推進										所属		
	【これまでの取組】 委託先である社会福祉協議会と制度の共有を図り、社会資源を最大限に活用した生活困窮者支援と生活保護制度のスムーズな橋渡しに務めた。										福祉・児童課		
	【今後の方向性】 8050問題が顕在化してきており、公的支援を受けられない方に向けた就労先の確保や年金支給までのつなぎ支援について検討する。												
	【関連する個別計画】 なし												
施策指標	内容			改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
	生活困窮者自立支援事業の新規相談受付件数 (月平均 人口10万人あたり換算)			H27 26.6件	R02 22件以上を維持	目標 実績	22件以上を維持 23.3件	22件以上を維持 10.2件	22件以上を維持 7件	22件以上を維持 13件	22件以上を維持 12件	未達成	福祉・児童課
3 地域福祉施策の充実													
重点項目	① 福祉バスの安全・安心な運行 ② 社会福祉協議会、地区社会福祉協議会の事業実施に向けた支援 ③ 地域福祉計画に沿った事業の推進										所属		
	【これまでの取組】 社会福祉活動に期するため、複数回の要綱改正を行い、ニーズに即した適正な用途に利用できるよう努めた。										福祉・児童課		
	【今後の方向性】 少子高齢化の進行によるニーズの変動に適応できるよう努める。												
	【関連する個別計画】 地域福祉計画												
4 結婚・出産・子育て支援日本一の実現													
【政策の基本的な考え方】 家庭・地域・企業・行政が一体となって、安心して子どもを産み育てることができるまちを目指す。													
【総括の視点】 結婚相談事業の積極的な推進・安心して出産、子育てができる支援体制の充実													
総括	<p>・結婚相談の施策については、市が委嘱した「結婚相談員」による相談や、工夫を凝らした男女の交流イベントなどを実施しているが、成婚に至るのは毎年数件にとどまっている。今後も、相談しやすい体制整備、SNS等の活用、参加したくなる交流イベントの企画など、さまざまな方法により積極的に実施していく必要がある。</p> <p>・妊娠・出産・子育てへの支援について、出生数は減少しているが、出産や子育てに関する不安やニーズは多様化しており、個別な支援を必要とする家庭が増えている。平成28年に「子育て世代包括支援センター」を開設し、総合相談窓口として保健・医療・福祉・教育が連携した支援を行ってきた。また、福井勝山総合病院での分娩再開を目指して支援してきたことにより、平成30年度に同産婦人科に常勤医が配置された。今後は、これまでの出産・子育てに関する支援をさらに充実させるとともに、未就学児だけでなく、小、中、高校、大学など期間を幅広く捉え、継続性のある子育て支援サービスへの展開が必要である。</p>												
1 結婚支援策の充実													
重点項目	① 結婚相談員による相談体制の強化 ② SNSや県・市ホームページ、フリーペーパー等の情報誌を活用した婚活情報発信の強化 ③ スポーツ活動をはじめとする体験型イベント等を通じた出会いの場の創出										所属		
	【これまでの取組】 独身女性に訴求するイベントの提案と出会いの場を提供した。また結婚相談を通じた相談体制の強化に努めた。										福祉・児童課		
	【今後の方向性】 個々のニーズが多様化しているなかで、マッチングシステムの活用や男性の魅力アップ講習、親の世代に向けた婚活セミナーなど支援策の充実を図る。												
	【関連する個別計画】 なし												
施策指標	内容			改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
	結婚相談件数(平成23年度からの累計)			H27 793件	R02 1,370件	目標 実績	900件 953件	1,010件 1,117件	1,125件 1,268件	1,245件 1,388件	1,370件 1,454件	達成	福祉・児童課
市が支援したカップルの婚姻数(平成23年度からの累計)			H27 19件	R02 49件	目標 実績	25件 20件	31件 22件	37件 23件	44件 25件	49件 26件	未達成	福祉・児童課	
2 出産支援体制の充実													
重点項目	① 出産連携体制の支援と情報発信 ② 産後ケアへの対応など出産前後における支援体制の充実 ③ 産婦人科医の確保に向けた関係機関への働きかけ										所属		
	【これまでの取組】 妊娠期から子育て期にわたるまで、健康の保持増進と経済的支援を行い、子育て支援の充実に取り組んだ。										健康長寿課		
	【今後の方向性】 安心して出産・子育てできる環境づくりに必要なニーズを把握し、子育て支援の充実を図る。												
	【関連する個別計画】 第4次勝山市健康増進計画												
施策指標	内容			改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
	にこにこ妊婦奨励金制度の利用者数			H27 61人	R02 74人	目標 実績	70人 72人	71人 61人	72人 59人	73人 59人	74人 64人	未達成	健康長寿課
統計的手法による人口推計に基づく年間出生見込み数を上回る年間出生数			H27 148人	R02 136人	目標 実績	145人 156人	142人 130人	140人 128人	138人 117人	136人 -	-	健康長寿課	

3 子育て支援の充実

重点項目	① 子ども医療費助成の対象年齢拡充	所属 福祉・児童課
	② すくすく育成奨励金の継続	
	③ 保育料軽減の継続	
	④ 放課後児童対策にかかる児童センター利用料金の無料化の継続	
	⑤ 児童インフルエンザワクチン予防接種助成等の充実	
⑥ 子育て支援に関する施策の市内外へのPR強化		
⑦ 「子育て支援センター」など地域における子育て支援サービスの充実		
⑧ 幼保一元化を含めた保育サービスの充実		
⑨ 認定こども園移行に対する支援		
⑩ 子どもの居場所づくり		
⑪ 要保護児童への対応等きめ細かな取組みの推進		
⑫ 子ども子育て支援事業計画の推進		
⑬ 病児・病後児保育の充実		
⑭ 障がい児保育の充実		
	【これまでの取組】 保育の無償化や子ども医療費助成の対象年齢拡充、児童センターの無料化や早朝利用の実施など、子育て家庭に対する支援の充実を図った。	
	【今後の方向性】 少子高齢化に伴う社会状況の変化をふまえ、共働き世帯や配慮を必要とする家庭が安心して子どもを産み育てることができる環境づくりを推進する。	
	【関連する個別計画】 子ども・子育て支援事業計画	

施策指標	内容	改定時値	目標値	目標実績	H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
					0人を維持	0人を維持	0人を維持	0人を維持	0人を維持		
保育園・認定こども園の待機児童数		H27	R02		0人	0人	0人	0人	0人	達成	福祉・児童課
		0人	0人を維持		0人	0人	0人	0人			

5 安定した医療、保健制度の実現

【政策の基本的な考え方】	市民・行政・医療機関が協力した医療体制の充実および国民健康保険と後期高齢者医療制度の安定的な運営を推進する。
【総括の視点】	地域医療体制の充実・国民健康保険制度の安定的な運営
総括	<p>・奥越2次医療圏を存続するために、かかりつけ医の推進や国、県への要望活動を行い、第7次福井県医療計画に奥越2次医療圏が位置づけられた。また、地域医療を守るため継続して人材確保に関する支援を行ってきた。また、市民に対して、医療の現状や「かかりつけ医」を持つ意味について講座の実施など普及啓発を進めてきた。今後も、予防接種や健診等においてかかりつけ医を持つことを引き続き奨励していく必要がある。</p> <p>・勝山市の国民健康保険税収納率は、依然として県内でもトップクラスの高い水準を維持している。引き続き、口座振替の推進や納税相談、滞納処分を実施することにより、収納率を維持する必要がある。平成30年度から国民健康保険は県と市町が共同しての運営が開始され、今後保険税率の県内統一が予定されている中、国保加入者が5,000人を割込み、65～74歳加入者割合が約57%と高くなっている。今後、いわゆる団塊の世代の全ての加入者が75歳以上となる令和7年度までは著しい加入者の減少が続くことから、その影響で加入者一人当たりの負担増加が考えられる。県内の保険税率統一までの間、被保険者の税負担の緩和・軽減に努める必要がある。</p>

1 地域医療体制等の充実

重点項目	① JCHO福井勝山総合病院の機能の維持・充実	所属 健康長寿課									
	② JCHO福井勝山総合病院とかかりつけ医の連携に向けた働きかけ										
	③ かかりつけ医を持つことへの市民への働きかけ										
	④ 地域医療に関する市民への理解促進										
	【これまでの取組】 かかりつけ医の必要性について講座等で周知した。また、新型コロナウイルス感染症対策として医療機関への医療資材の提供や応援給付金等の支援を行った。										
【今後の方向性】 引き続きかかりつけ医を推進する。また、医療機関と連携し、新型コロナワクチン接種を推進する。											
【関連する個別計画】 第4次勝山市健康増進計画											
施策指標	内容	改定時値	目標値	目標実績	H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
	「かかりつけ医」を持っている市民(18歳～64歳)の割合	H27	R02		63.0%	64.0%	65.0%	66.0%	67.0%		
		—	67.0%		81.4%	84.0%	58.4%	—	—	未達成	健康長寿課

2 安定した国民健康保険制度の運営

重点項目	① 適正な保険税率の検討・見直しによる単年度収支の赤字解消	所属 市民・税務課
	② 国保データヘルス計画に基づいた生活習慣病予防対策など保健事業の推進	
	③ 県単位での国保運営への対応	
	【これまでの取組】 適正な保険税率の設定に努めるとともに歳入確保や歳出適正化の取り組みを重ねた。平成30年度には賦課方式の「資産割」を廃止し、3方式に変更した。	
	【今後の方向性】 保険税率の県内統一の動きを注視しながら、適正な保険税率の設定、資格の適用適正化と収納率の向上に努め、医療給付費の適正化や保険事業の推進を図る。	
【関連する個別計画】 勝山市国民健康保険保健事業実施計画(第2期データヘルス計画)		
重点項目	④ 健康保持と未来の医療費抑制に向けた生活習慣病予防対策	所属 健康長寿課
	⑤ 特定健康診査受診者数増加のための取組み	
	【これまでの取組】 若いうちからの健康管理として30歳代健診を新規に実施した。また、コロナ禍における受診者数の減少を抑えるため、感染拡大防止策をとりつつ、予約制で特定健康診査を実施できるよう取り組んだ。あわせて予約を簡便にするためWEB等予約システムの利用を検討、試験的に実施した。	
【今後の方向性】 30歳代健診を医療機関でも受診可能として受診体制を充実する。		
【関連する個別計画】 なし		

施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
					目標	実績	目標	実績	目標		
国民健康保険税の収納率(現年度)		H27	R02	目標	97.6%	97.7%	97.7%	97.8%	97.8%	達成	市民・税務課
		97.6%	97.8%	実績	97.9%	98.4%	98.4%	98.7%	-		
特定健康診査の受診者数		H27	R02	目標	1,780人	1,800人	1,820人	1,840人	1,860人	未達成	健康長寿課
		1,778人	1,860人	実績	1,639人	1,517人	1,631人	1,573人	1,311人		

6 安全安心に暮らせるまちの実現

【政策の基本的な考え方】	市民・地域・行政が一体となった災害に強いまち、市民の日常における安全安心の確保を目指す。
【総括の視点】	総合的な防災体制の確立・消防、救急体制の充実・高齢者等の交通安全対策の推進・総合的な防犯対策の推進・消費者保護対策の充実

総括	<p>・市民の防災意識の向上と地域における避難体制の確立を図るため、避難行動要支援者の新規登録および更新を行うとともに、勝山市総合防災訓練および各地区住民避難訓練を毎年実施してきた。今後は、実際に起こりうる災害について地域ごとのシミュレーションに基づいた訓練を実施するとともに、人口減少・少子高齢化等による地域コミュニティの変化に対応した訓練のあり方を検討し実施していく必要がある。市民への情報発信のツールの一つとして、平成28年度からの3年間で防災行政無線を11基増設し、2施設に戸別受信機を移設整備した。今後は、さまざまなツールを活用した複数の手段による防災情報の発信を進めていく必要がある。防災フォーラムや防災出前講座を通じ自主防災組織の重要性を啓発し、平成30年度末現在で63組織が設立されている。今後は、地域における防災士の育成とともに、各自主防災組織の情報共有および連携を図るネットワークの確立が必要である。</p> <p>・消防機動力を充実させるため、計画的な消防車両の更新や消防施設等の整備を進めてきた。また、消防団については現在は目標の人員は確保されているものの、今後は困難になってくることが予想される。少子高齢化が進む中、現在の消防団のあり方について再検討し、消防力を低下させないよう事前の対策が必要である。</p> <p>・救急体制については、救急救命講習会を毎年継続し市民への応急手当の普及や促進に努め、多くの市民が受講している。今後は、再講習や低年齢層を対象にした普通救命講習の実施を進め、若者の受講者数の増加を図る必要がある。また、救急出動体制を維持するため計画的に救急救命士を養成するほか、指導救命士を中心とした救急隊の知識・技術をさらに向上させる必要がある。なお、「特定小規模消防本部」として消防広域化重点地域に指定されるなか、概ね10年後の消防体制のあり方を見通しながら、県のリーダーシップのもと検討が行われる可能性がある。</p> <p>・勝山市の交通死亡事故は、平成30年11月を最後に1年以上にわたり発生していない。今後、引き続き年間を通して街頭啓発や交通安全教室、講習会等、交通安全対策に向けた取り組みを継続的に実施していく必要がある。また、平成21年度から高齢者の免許証自主返納制度を開始し、高齢者が関係する交通事故の未然防止に努めてきた。今後、警察署、高齢者団体および地域公共交通と連携し、高齢者運転免許証自主返納支援事業のさらなる利用者増を目指す取り組みを推進する必要がある。</p> <p>・防犯対策については、市防犯隊による夜間パトロールの実施、警察署等による市民への各種啓発等、市民・警察署・市が一体となった防犯対策を推進してきた。防犯対策の一つである街路灯設置については、区への設置補助金、指定通学路への設置要望等により、他市町と比較してもきめ細かい設置が実現できたものとする。今後、高速交通体系の整備による交流人口の増加が見込まれる中、防犯体制のさらなる強化を図る必要がある。また、防犯カメラ等の設置など新たな防犯対策事業の取り組みについて研究する。</p> <p>・消費者保護対策については、消費者の自立支援に加え、年間を通じて、イベントをはじめ出前講座や街頭キャンペーン、広報紙等での情報提供など、消費者意識の向上、消費者被害の防止を図る取り組みを進めてきた。消費者トラブル事案が益々多種多様化する中、「消費者市民社会」の実現を目指して平成29年度末に「勝山市消費者教育推進計画」を策定し、幼児期から高齢期までのライフステージに応じた消費者教育の推進を図っているが、特に脆弱になっている成人期の若者世代に対する消費者教育を強化する必要がある。</p>
----	--

1 消防体制の充実

重点項目	<p>① 消防機動力の整備計画に沿った老朽消防車両等の更新および消防施設の計画的更新の実施</p> <p>② 各地区の自衛消防力の維持</p> <p>③ 市民防火意識の向上</p> <p>④ 防火査察の強化</p> <p>⑤ 住宅用火災警報器の適切な維持管理の働きかけ</p> <p>⑥ 消防広域化計画への対応</p>	所属
	<p>【これまでの取組】 消防車両については計画的に整備を行った。消防団員の確保については、県の事業を活用し、PRグッズ等を制作し消防団加入促進事業を行った。広報紙、ホームページを活用し、火災予防と住宅用火災警報器の点検を呼びかけ、火災気象通報発令時には広報車両での積極的な注意喚起を行った。</p> <p>【今後の方向性】 消防車両、消防施設の整備については、今後も計画的に進める。消防団については、減少している分団を全体でカバーしながら維持していく。火災予防については広報紙、ホームページを活用すると共に、住宅用火災警報器の設置率の低い地区への訪問調査を行っていく。</p> <p>【関連する個別計画】 なし</p>	消防署

施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
					目標	実績	目標	実績	目標		
消防団員の実員数		H27	R02	目標	290人を維持	290人を維持	290人を維持	290人を維持	290人を維持	達成	消防署
		291人	290人を維持	実績	288人	289人	296人	294人	292人		
無火災連続日数 (ぼや火災以外の建物火災または1,000㎡以上の林野火災)		H27	R02	目標	200日以上を維持	200日以上を維持	200日以上を維持	200日以上を維持	200日以上を維持	達成	消防署
		252日	200日以上を維持	実績	210日	310日	151日	266日	126日		
年間火災件数(ぼや、車両火災、林野火災など全て含む)		H27	R02	目標	10件以下を維持	10件以下を維持	10件以下を維持	10件以下を維持	10件以下を維持	達成	消防署
		11件	10件以下を維持	実績	8件	2件	10件	6件	9件		

2 救急体制の充実

重点項目	<p>① 救急医療対策事業の維持・継続</p> <p>② 小児初期救急事業の充実</p>	所属
	<p>【これまでの取組】 在宅当番医制事業と小児救急医療支援事業を実施し、救急医療体制を確保した。また、救急医療に関する知識の普及啓発を行った。</p> <p>【今後の方向性】 救急医療対策及び小児初期救急事業を継続し、救急体制を維持する。</p> <p>【関連する個別計画】 第4次勝山市健康増進計画</p>	健康長寿課

重点項目	③ 救急体制の強化に向けた高規格救急車の更新、救急救命士の計画的な養成・増強 ④ 応急手当方法の普及・促進 ⑤ AED設置の普及および機器点検の徹底 ⑥ クラウド型救急医療連携システムの活用推進										所属		
	【これまでの取組】		救急救命士については5年間で5人養成し、当務員で現在11名となった。応急手当の普及について低年齢層に向けた救急入門コースを実施した。また、消防団員に個別案内を行い再講習を実施した。								消防署		
	【今後の方向性】		救急救命士については、今後も計画的な養成に取り組んでいく。救急講習については、少人数制やWebを用いたeラーニングを活用するなど、コロナ禍に対応した方法で進めていく。										
【関連する個別計画】 なし													
施策指標	内容			改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
	普通救命講習受講者数(平成23年度からの累計)			H27 1,189人	R02 2,200人	目標 実績	1,400人 1,466人	1,600人 1,606人	1,800人 1,758人	2,000人 2,052人	2,200人 2,101人	未達成	消防署
	AEDを含む救急講習受講者数(平成23年度からの累計)			H27 7,240人	R02 13,200人	目標 実績	8,400人 8,467人	9,600人 9,844人	10,800人 11,136人	12,000人 12,534人	13,200人 12,828人	未達成	消防署
3 総合的な防災体制の確立													
重点項目	① 地域防災拠点のあり方の検討 ② 防災備蓄の充実、地域防災拠点への分散備蓄 ③ 情報伝達方法として防災行政無線の増設と防災情報の多チャンネル化研究・構築 ④ 防災リーダーの養成、地域が主体となった自主防災組織の設立・支援 ⑤ 地域における受援力向上に向けた研修会等の実施 ⑥ 避難行動要支援者の登録促進 ⑧ 防災フォーラムや防災出前講座の実施 ⑨ 各種防災訓練の充実 ⑩ 公共施設の耐震化の推進 ⑪ 第三者に危害を及ぼすおそれのある不在家屋対策の実施 ⑫ 勝山市体育館「ジオアリーナ」の災害時の防災複合施設としての活用										所属		
	【これまでの取組】		防災訓練及び防災講座等で情報収集の必要性を伝え、勝山市緊急メールサービス等の活用を推進した。								総務課		
	【今後の方向性】		自主防災組織未設立地区への設立を促すとともに、自主防災組織連絡協議会を設立する。										
【関連する個別計画】 勝山市地域防災計画													
⑦ 基礎的コミュニティの高齢化と核家族化を見据えた地域協働体制のあり方の検討											所属		
【これまでの取組】		集落合併制度の構築を目指したが地域からの要望は無く構築には至らなかった。								総務課			
【今後の方向性】		集落の広域的な連携体制を支援し、持続可能なコミュニティの構築を目指す。											
【関連する個別計画】 第2次勝山市行財政改革実施計画													
施策指標	内容			改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
	防災行政無線整備率(音声が届く戸数の比率)			H27 90.7%	R02 98.0%	目標 実績	94.0% 94.1%	95.0% 94.8%	96.0% 94.8%	97.0% 94.8%	98.0% 94.8%	未達成	監理・防災課
	「勝山市緊急メールサービス」登録数			H27 2,077件	R02 3,500件	目標 実績	2,300件 2,685件	2,600件 2,880件	2,900件 2,940件	3,200件 3,741件	3,500件 4,030件	達成	監理・防災課
	地域が主体となった自主防災組織の数(平成23年度からの累計)			H27 53組織	R02 78組織	目標 実績	58組織 61組織	63組織 61組織	68組織 63組織	73組織 66組織	78組織 68組織	未達成	監理・防災課
	公共施設の耐震化率			H27 93.0%	R02 100.0%	目標 実績	96.0% 94.5%	97.0% 94.5%	98.0% 96.8%	99.0% 98.4%	100.0% 98.4%	達成	監理・防災課
4 交通安全対策の推進													
重点項目	① 運転免許証返納の促進等による高齢者が関係する交通事故減少に向けた取組みの強化 ② 交通指導員による交通指導、交通安全啓発の実施 ③ 学校等での交通安全教室の推進 ④ 勝山市交通安全協会との連携強化										所属		
	【これまでの取組】		運転免許返納者に対してコミュニティバス及び市内バスにおける無料乗車券を交付する運転免許証自主返納支援事業を実施し、高齢者に対する交通安全対策を推進した。その他には、四季の交通安全活動の実施、市内全小学校、保育園、幼稚園等の安全教室の実施、警察と交通安全協会と連携した安全教室を開催し、交通安全対策を推進した。								環境・政策課		
	【今後の方向性】		継続的に啓発活動等を実施し、交通安全対策を推進する。										
【関連する個別計画】 なし													

重点項目	5 防犯の推進										所属			
	① LED型公衆街路灯の普及推進 ② 集落間における街路灯(防犯灯)設置困難箇所の計画的整備 ③ 防犯隊など市民と連携して進める防犯体制の推進										総務課			
	【これまでの取組】		各地区が設置するLED型公衆街路灯設置及び電気料に対して1/2、防犯カメラの設置に対して2/3補助を実施し、公衆街路灯の普及を図ることで防犯を推進した。											
	【今後の方向性】		防犯カメラの普及を推進し、防犯体制の強化を図る。											
【関連する個別計画】 第2次勝山市行財政改革実施計画														
施策指標	内容				改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
	公衆街路灯のLED型への更新率				H27	R02	目標	80.0%	81.0%	83.0%	84.0%	85.0%	達成	総務課
					75.0%	85.0%	実績	80.6%	82.5%	85.0%	85.0%			

重点項目	6 消費者保護の推進										所属			
	① 暮らしのアドバイザーや消費生活モニター等の育成 ② 出前講座やキャンペーンによる消費者意識向上に向けた働きかけ ③ 幼児期から高齢期まで年代に応じた消費者教育の推進										市民・税務課			
	【これまでの取組】		各種学習会や講演会・イベント・出前講座の開催、小中学校での消費者教育授業の実施等を行い、あらゆる世代に対して消費者意識の向上を図った。											
	【今後の方向性】		今後も各種講座の開催やキャンペーン等、情報提供や消費者意識の向上に取り組み、消費者被害の防止に努める。											
【関連する個別計画】 勝山市消費者教育推進計画														
施策指標	内容				改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
	年間消費生活相談件数				H27	R02	目標	310件	320件	330件	340件	350件	未達成	市民・税務課
					297件	350件	実績	315件	356件	341件	310件	281件		

第3章 にぎわいと産業の振興、連携による持続可能なまちづくり

総括	1 農業の振興									
	【政策の基本的な考え方】		勝山市の地理的条件の中で、寒暖差のある気候などの特徴を活かし、地域において将来へ引き継ぐことができる持続可能な農業を推進する。							
	【総括の視点】		勝山型農業の確立・鳥獣害防止対策の推進							
	<p>・持続可能な農業の推進を図るため、新たな担い手の育成、農地の集積、農業用水路の更新や農道の舗装、農産物加工の支援、交流型農業などの取り組みを進め、認定農業者や集落営農組織の増加など一定の成果があった。しかしながら、農業従事者数の減少や高齢化、後継者不足が年々深刻化してきている。今後は、地域の状況に合わせて将来に向けた話し合いが進むよう取り組むとともに、集落営農の広域化、農地集積の継続、農業用施設の長寿命化、6次産業化、スマート農業などの取り組みを支援し、効率的・効果的な農業を進める必要がある。</p> <p>・鳥獣害に関しては、イノシシによる農作物の被害防止対策を実施してきたことにより被害額等に減少傾向がみられるものの、イノシシ以外の野生鳥獣による農業被害の発生により、農業者の農業に対する生産意欲低下の原因となっている。また、カワウによる鮎の食害、カラスによる市街地の糞害、クマによる人身被害など、農業以外においても野生鳥獣による被害が発生している。今後は、山際の緩衝帯の整備、放任果樹対策、収穫残渣や生ごみの撤去徹底、柵等の整備など野生鳥獣を農地や人里へ寄せ付けない環境づくりの対策が基本となる。また、これらは集落ぐるみや地域全体で取り組むことが効果的であり、集落全体の意識を高めるための研修会の開催、技術指導、リーダー育成などが必要である。さらには、加害個体の捕獲も実施していく必要があり、捕獲を行う実施者の後継者育成、技術継承、ICTの活用などを進める必要がある。</p>									

重点項目	1 集落を基盤に考える地域農業の振興										所属			
	① 地域営農体制への支援強化 ② 農業経営体への農地利用集積の促進 ③ 新たな担い手への支援 ④ 遊休農地の発生抑制と解消 ⑤ 中山間地域等直接支払事業の推進 ⑥ 農業公社機能の発展・充実 ⑦ JAなど関係団体との連携強化 ⑧ 市民農園の活用促進										農林政策課			
	【これまでの取組】		地域組織への機械補助等の支援、農業経営体への農地利用集積、新規就農者への支援等様々な取り組みを実施し、地域営農の振興を図った。											
	【今後の方向性】		農業従事者の減少や高齢化、後継者不足が深刻化していることから、農業経営体への支援及び農地利用集積と同時に地域営農組織、新規就農者の育成及び支援を強化する。											
【関連する個別計画】 農業経営基盤の強化に関する基本構想、勝山市農業・農村ビジョン														
施策指標	内容				改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
	担い手への農地利用集積割合				H27	R02	目標	68.0%	69.0%	70.0%	71.0%	72.0%	未達成	農林政策課
					66.0%	72.0%	実績	74.0%	72.0%	68.0%	65.6%	65.7%		

重点項目	2 循環型農業を基軸とした勝山型農業の推進										所属
	① 地域特産品開発と販路開拓の推進 ② 田舎暮らし体験による交流型農業の推進 ③ 地産地消の推進 ④ 新たな農産物直売所、加工所設置への支援 ⑤ 身近な有機物循環の土づくりやエコファーマーの推進										農林政策課
	【これまでの取組】		令和2年に道の駅の農林産物販売所がオープンし、多くの市内農業者等からの出荷が得られるなど販路開拓を推進した。また、田舎暮らし体験による交流型農業を推進してきたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延により体験者数が激減した。								
	【今後の方向性】		道の駅農林産物販売所での販売支援の強化、田舎暮らし体験の推進、環境保全型農業の推進などにより農業者の所得向上を図る。								
【関連する個別計画】 勝山市農業・農村ビジョン、勝山市食育推進計画											

施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
					目標	実績	目標	実績	目標		
田舎暮らし交流の年間受入人数		H27	R02	目標	210人	220人	230人	240人	250人	未達成	農林政策課
		198人	250人	実績	182人	181人	124人	137人	19人		
農林水産物を活用した「かつやま逸品」(平成23年度からの累計)		H27	R02	目標	14件	15件	16件	17件	18件	未達成	農林政策課
		13件	18件	実績	16件	16件	17件	17件	17件		

3 経営効率化に資する生産基盤・農業用施設の適正な機能の確保											
重点項目	① 農業用施設の機能向上に向けた改修の実施										所属
	② 迅速な水路等の改修・修繕の実施										
	③ 農道機能の維持・向上の実施										
	④ 土地改良区や地域活動団体の活動促進										
	【これまでの取組】	国庫補助事業を活用し老朽化した農業用施設の改修を行い機能の確保を図った。また、農地区画の拡大や農道の拡幅を行い、大型機械化に対応化など経営効率化を図った。									
	【今後の方向性】	老朽化した水利施設等を更新を行いつつ、ICTなどの新技術を活用した水利施設の効率的な水管理に取り組む。また、頻繁化する天災等に対応する。									
	【関連する個別計画】	勝山市農業水利施設修繕計画									

4 鳥獣害防止対策の推進											
重点項目	① 固定柵・ネット柵・電気柵等の整備										所属
	② 山ざわ緩衝帯の整備										
	③ 獣肉解体処理施設の調査・研究										
	④ 県や猟友会など関係機関との連携強化										
	【これまでの取組】	勝山市鳥獣被害防止計画に基づきネット柵、電気柵、山ざわ緩衝帯の整備を継続的に実施した。また、猟友会と連携を密にした強固な被害防止体制を構築し、鳥獣害防止対策を推進した。									
	【今後の方向性】	今後も勝山市鳥獣被害防止計画に基づき被害防止対策の推進する。また、猟友会の会員が高齢化しているため捕獲隊の育成を図る。									
	【関連する個別計画】	勝山市鳥獣被害防止計画									

施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
					目標	実績	目標	実績	目標		
被害面積の抑制(水稲、麦、そばの作付面積比) ※対象は共済加入農作地		H27	R02	目標	1%以内を維持	1%以内を維持	1%以内を維持	1%以内を維持	1%以内を維持	達成	農林政策課
		1.59%	1%以内を維持	実績	1.88%	0.73%	0.51%	0.16%	0.40%		

2 林業の振興

【政策の基本的な考え方】	森林の適正管理を進めるとともに、林業担い手の育成を図る。
【総括の視点】	森林の適正管理

【総括】 現在、所有者の高齢化や世代交代により、境界が不明確で管理されていない森林が多数存在している。市内にはスギを主体とした人工林が7千ヘクタール以上あり、標準伐期齢に達しているものは主伐を行っていく時期が到来している。また、それ以外の森林についても保育・間伐を適正に実施していく必要がある。今後、管理が行われていない森林について、森林所有者の意向に応じて、市が仲介役となり森林所有者と林業経営者をつなぐ森林経営管理制度等の活用により、森林境界を明確化し適正な管理を行っていく必要がある。

1 継続的な森林管理の推進											
重点項目	① 国・県の補助制度の周知・活用										所属
	② 森林境界明確化の推進										
	③ 森林整備活動支援交付金制度の継続										
	④ 九頭竜森林組合と各生産森林組合の行う森林育成や造林事業活動に対する助成										
	【これまでの取組】	国・県の補助制度を活用し森林組合の活動助成を行うとともに、森林境界を明確化し個人の森林管理の推進した。									
	【今後の方向性】	森林環境譲与税を有効活用し、間伐や人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等を推進する。									
	【関連する個別計画】	勝山市森林整備計画、勝山市森林経営計画									

施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
					目標	実績	目標	実績	目標		
森林境界を明確化した森林面積(平成23年度からの累計)		H27	R02	目標	785ha	870ha	970ha	1,070ha	1,170ha	達成	農林政策課
		673ha	1,170ha	実績	785ha	880ha	1,026ha	1,158ha	1,281ha		
林道・作業道の舗装・改良工事施工延長(平成23年度からの累計)		H27	R02	目標	6,232m	6,600m	7,200m	7,800m	8,400m	達成	農林政策課
		5,352m	8,400m	実績	6,165m	7,162m	8,112m	9,075m	9,566m		

2 多様な活動主体による森林活用											
重点項目	① 東山いこいの森と勝山森林公園の利用促進										所属
	② 遊歩道の利活用の推進										
	③ 企業の森づくりの拡大、環境整備										
	④ 広葉樹の植樹への助成										
	【これまでの取組】	市有林、勝山森林公園、東山いこいの森等を活動拠点として、市民に対して森林・林業に対する理解の醸成を行った。									
	【今後の方向性】	今後も継続して各種団体と協力し、森林管理の重要性等を啓発するとともに、森林の活用を促進する。									
	【関連する個別計画】	勝山市森林整備計画									

施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
					目標	実績	目標	実績	目標		
民有林での実のなる木の植樹(平成23年度からの累計)		H27	R02	目標	12,000本	20,000本	28,000本	36,000本	44,000本	未達成	農林政策課
		4,205本	44,000本	実績	13,225本	17,822本	25,209本	30,684本	30,684本		
東山いこいの森の利用者数		H27	R02	目標	—	3,850人	3,900人	3,950人	4,000人	未達成	農林政策課
		3,703人	4,000人	実績	3,397人	3,491人	3,093人	3,325人	594人		

3 内水面漁業の振興

【政策の基本的な考え方】 市内の恵まれた河川環境を活かした水産業の振興を目指す。

【総括の視点】 アユを中心とした水産業の振興・市民が水辺に親しむ環境整備

総括
 ・勝山市産の鮎を「九頭竜川勝山あゆ」としてブランド化を進めるため、勝山市漁業協同組合が中心となり商標登録を行った。また、令和2年度オープン道の道の駅出品に向け鮎商品を開発しているなど、勝山の鮎のPRを進めている。しかしながら、大雨や台風による川の増水によって、鮎の漁獲量に影響が出るため、鮎の安定的な確保が課題となっている。今後は、勝山市道の駅「恐竜渓谷かつやま」を中心として、「九頭竜川勝山あゆ」ブランドをさらに推進するとともに、魚道の整備やモニタリング調査、適正な量の稚鮎の放流をすることで、鮎の安定的確保を図る必要がある。
 ・勝山市漁業協同組合を中心に、鮎釣り体験教室、魚掴み体験出前講座、各種鮎釣り大会誘致など、アユを通じて市民が水辺環境に親しむ取り組みを進めてきた。今後、交流人口がさらに増加する中、道の駅を拠点とし、水辺に親しむ取り組みをさらに進めていく必要がある。また、河川清掃イベント「クリーンアップ九頭竜川」や環境美化活動「かつやまをきれいにする運動」の取り組みなど、これまで市民・事業所・行政が協力して進めてきた事業をさらに充実するため、より多くの市民が参加したくなるような仕掛けづくりを進め、水辺環境の保全に対する市民全体の意識を高めていく必要がある。

1 水産資源の保護・活用

重点項目											所属
	① 淡水魚保護培養の推進 ② 水産業振興の推進 ③ アユ釣り体験など、市民が水辺環境に親しむ機会の提供										
【これまでの取組】	勝山市漁協がブランド化を図るため「九頭竜川勝山あゆ」の商標登録を行い、道の駅でアユの塩焼き、鮎サンドイッチ、鮎ソースかつ丼の販売を行った。さらに、鮎釣り体験教室や魚掴み体験出前講座の実施、鮎釣り大会の誘致により市民が水辺環境に親しむ場の提供を行い水産資源の保護・活用を図った。										
【今後の方向性】	モニタリング、魚道の整備、適正な量の稚魚の放流により、鮎の安定供給及び質の向上を図る。併せて、道の駅「恐竜渓谷かつやま」での販売、「九頭竜川勝山あゆ」のインターネット販売を増やす。また、鮎釣り体験など市民が水辺環境に親しむ機会を提供するなど、水産資源の活用を図る。										
【関連する個別計画】	浜の活力再生プラン										

施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
					目標	実績	目標	実績	目標		
勝山市域における年間のアユ釣り客数		H27	R02	目標	—	8,400人	8,600人	8,800人	9,000人	未達成	農林政策課
		7,960人	9,000人	実績	7,955人	9,260人	4,410人	6,500人	6,100人		
稚鮎等の年間放流量		H27	R02	目標	—	5,300kg	6,000kg	6,500kg	7,000kg	未達成	農林政策課
		6,085kg	7,000kg	実績	4,890kg	5,351kg	5,400kg	3,625kg	3,500kg		

4 商工業の振興

【政策の基本的な考え方】 高速交通体系の整備が進む中、既存・新産業への支援を強化するとともに、中心市街地のにぎわい創出、あらたな特産物の開発などにより、地域経済の活性化および雇用創出を図る。

【総括の視点】 既存・新産業への支援強化・商業施設の集約化、にぎわいある商店街の復活

総括
 ・産業支援について、人口減少、少子高齢化などによる労働生産人口減少の影響により、一企業の努力では対応できない社会情勢となっていることから、産業振興懇話会や企業訪問を通じ、景況や行政への要望等について情報を収集しながら、適切な助成制度、融資等の支援を推進している。また、市民への企業に関する情報提供として、市内の企業を誌面で紹介する「いんとろ」を制作し、中高生等に配布するなど広くPRを進めている。今後、企業ニーズの情報収集と現状把握により、適切な支援制度を構築するとともに、市民へ企業情報の提供によるマッチングをさらに進め雇用創出につなげていく必要がある。また、地域経済の活性化を図るため、ジオターミナルや道の駅での販売を目指した土産物、特産品の開発に向けた支援をさらに進める必要がある。
 ・まちなかの商業団体や商工業者の高齢化が進み、後継者が不在のため廃業される個店もあり、今後も空き家が増えることが予想される。今後は、創業塾などの事業により新規創業者の発掘や、第三者への事業承継などを進めることにより、まちなかの活性化を図る必要がある。また、新たな支援制度の創設など進めるとともに、勝山市観光まちづくり株式会社、商工会議所と連携した支援を行う必要がある。

1 活力ある商業経営の支援

重点項目											所属
	① 商業団体が実施するまちなか活性化事業への支援 ② まちなかへの出店促進に向けた支援 ③ 商業施設の活性化に対する支援 ④ 商業経営支援に向けた市内での消費拡大事業支援 ⑤ 後継者等の人材育成支援 ⑥ 勝山市観光まちづくり株式会社や勝山商工会議所など関係機関との連携強化 ⑦ 商業経営支援に向けた融資・助成制度の充実 ⑧ 地場産業を活かした土産物開発・販路開拓への支援 ⑨ 若者が楽しめるレジャー施設・店舗等の誘致検討やイベントの開催 ⑩ 小売店や宿泊施設等におけるクレジットカードや電子マネー決済の導入促進										
【これまでの取組】	勝山市観光まちづくり会社や勝山商工会議所と連携し、各種融資や補助制度を用いて商業経営の支援を行った。										
【今後の方向性】	新規創業者の発掘や、第三者への事業承継などを進めることにより、まちなかの活性化を図る。										
【関連する個別計画】	なし										

施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
					目標	実績	目標	実績	目標		
市内卸売業、小売業の事業所数		H27	R02	目標	303店	306店	309店	312店	315店	—	商工観光・ふるさと創生課
		300店	315店	実績	—	—	—	—	—		

2 地元企業への支援

重点項目	① 企業経営の支援(融資制度の充実、企業振興助成金の充実、人材育成の支援)	所属 商工観光・ふるさと創生課
	② 新しい産業への誘導(新技術・新製品開発への支援、産学官金連携による支援体制の構築、農商工連携にかかる事業の推進)	
	③ 産業振興調査研究事業の充実(企業動向等の調査・研究、研修会の実施)	
	④ 企業の雇用促進に対する支援	
⑤ ものづくり技術・研究開発支援制度の充実		
⑥ 市内製造業への支援策の充実		
⑦ 金融機関と連携した地元企業への支援		
⑧ 中高生への市内企業情報のPR		
⑨ ハローワークと連携した雇用対策の実施		
	【これまでの取組】 市内の企業を誌面で紹介する「いんとろ」を制作し、中高生等に配布するなど広くPRを進めるなど、市内企業への関心を高め、雇用促進を図った。	
	【今後の方向性】 各種融資、補助金等を用いた支援を継続し、商業活性化アドバイザー等の経営支援を行う。	
	【関連する個別計画】 勝山市地方創生総合戦略	

3 起業家の育成・支援

重点項目	① 起業を支援するためのネットワークづくり	所属 商工観光・ふるさと創生課
	② 起業家の掘り起こしと育成	
	③ 勝山商工会議所とのタイアップによる起業時の相談や経済的支援の実施	
	④ 支援制度の充実	
⑤ 空き店舗、空き工場の活用		
⑥ インキュベート施設の活用		
	【これまでの取組】 金融機関との連携による融資や商業施設出店促進事業補助金により新規事業者の育成・支援を行った。	
	【今後の方向性】 急速なデジタル化により、起業のスタイルも変化しているため、起業のニーズを把握して的確な支援を行う。	
	【関連する個別計画】 なし	

施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
市の積極的支援策による起業家数(平成23年度からの累計)		H27	R02	目標	16人	18人	20人	22人	24人	未達成	商工観光・ふるさと創生課
		12人	24人	実績	14人	16人	17人	18人	19人		

4 ソーシャルビジネスへの展開支援

重点項目	① 起業を支援するためのNPOや企業とのネットワークづくり支援	所属 商工観光・ふるさと創生課
	② 国・県・各種団体からの補助金の活用等による支援の検討	
	③ 医療、介護、福祉等の連携による新たなビジネス構築に向けた取り組みへの支援	
	【これまでの取組】 国等の支援策を活用することができる創業支援事業計画の策定を行った。さらに、融資制度への利子補給を行うなど起業を支援した。	
【今後の方向性】 ソーシャルビジネスに特化した支援ではなく、起業全体の支援を検討する。		
	【関連する個別計画】 なし	

5 企業立地・誘致の推進

重点項目	① 企業立地の推進	所属 商工観光・ふるさと創生課
	② 積極的な企業立地に向け企業ニーズを捉えるための人材の確保	
	③ 企業立地推進に向けた助成制度の充実	
	④ 空き工場および遊休地の有効活用	
⑤ 県外情報ネットワークの構築(関東、中京、関西を拠点とする情報網の確立)		
⑥ 誘致企業の雇用促進に対する支援		
⑦ 産業団地候補地の選定と確保		
	【これまでの取組】 平成30年度に企業振興助成金の交付要件を変更し、より活用しやすい助成金とすることで、地域の産業力を強化した。	
	【今後の方向性】 道の駅隣接地を勝山市の観光振興のエントランスゾーンと位置付け、観光、飲食、宿泊等に特化した企業誘致を目指す。	
	【関連する個別計画】 第2次勝山市行財政改革実施計画	

施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
企業立地推進による新規雇用者数(平成23年度からの累計)		H27	R02	目標	22人	24人	26人	28人	30人	達成	商工観光・ふるさと創生課
		20人	30人	実績	22人	33人	33人	36人	38人		

5 観光の産業化

【政策の基本的な考え方】	市内の観光資源や地域資源を活用し、農商工連携による着地型観光の推進を図り、総合的な施策の展開による観光誘客を促進し、地域経済の活性化を図る。
【総括の視点】	観光による地域経済活動の活性化

総括	・現在の観光施策はイベント開催と施設管理が大部分を占めているが、観光消費額の増加や観光客の滞在時間拡大にはつながっていない。今後、中部縦貫自動車道全線開通、恐竜博物館リニューアルおよび白山平泉寺の御開帳などによる観光客のさらなる増加に向けて、道の駅とその隣接地を一体的に整備することにより、ホテル、飲食店など、観光産業関連事業者を誘致し、滞在型観光を進めることで経済効果を高めていく必要がある。また、恐竜博物館リニューアルを控える長尾山総合公園の入園者数の増加を見据え、入園者の利便性の向上および新たなニーズに応える仕組みを民間ベースで構築、維持管理が必要である。
----	--

1 観光資源の活用による経済の活性化												
重点項目	① まちなかの魅力とにぎわいの創出 ② 勝山市観光まちづくり株式会社による着地型観光の推進 ③ 魅力的な観光商品の開発 ④ 勝山左義長まつりの振興と保存、継承への支援 ⑤ 福井県立恐竜博物館との連携による恐竜を活かした観光誘客の推進 ⑥ スキージャム勝山などリゾート産業との連携 ⑦ 国史跡白山平泉寺旧境内をはじめとする歴史遺産、自然遺産、産業遺産を活かした誘客の促進 ⑧ 越前大仏、勝山城博物館との連携による誘客促進 ⑨ 弁天桜並木の持続性の確保										所属	
	【これまでの取組】	恐竜のみならず、市内の魅力的な観光資源を生かしたイベント等の実施、おろしそば、おやきなどといった特産品を「勝ち山グルメ」と位置づけ、ブランド化を推進することで、観光による経済の活性化を図った。										商工観光・ ふるさと創生課
	【今後の方向性】	引き続き観光資源の魅力をもっと磨き上げるとともに、新たな観光資源の発掘にも取り組み、更なる活性化を推進する。										
	【関連する個別計画】	なし										
施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属	
	年間の観光消費額	H27	R02	目標	28.08億円	28.98億円	29.88億円	30.80億円	31.95億円	未達成	商工観光・ ふるさと創生課	
		27.67億円	31.95億円	実績	32.5億円	47.73億円	47.65億円	50.69億円	29.22億円			
	中心市街地への入込客数	H27	R02	目標	27万人	30万人	33万人	40万人	40万人	未達成	商工観光・ ふるさと創生課	
24.7万人		40万人	実績	22.8万人	23.5万人	18.7万人	23.2万人	11.6万人				
勝山市観光まちづくり株式会社による観光商品開発数 (平成28年度からの累計)	H27	R02	目標	0	2	4	6	8	達成	商工観光・ ふるさと創生課		
	—	8	実績	0	4	4	8	15				
2 環境整備による周遊性・滞在性の促進												
重点項目	① 道の駅の整備促進 ② 長尾山便益施設「ジオターミナル」の整備促進 ③ 旧料亭花月楼とはたや記念館ゆめおーれ勝山を拠点としてまちなか周遊観光の推進 ④ 観光ガイド(ジオパークガイド)の育成 ⑤ ワンストップ観光サービス機能の整備・充実 ⑥ 温泉センター水芭蕉の施設整備と維持管理 ⑦ リゾートウェディング等に活用できる勝山ニューホテルの施設整備と維持管理 ⑧ 観光施設・宿泊施設・飲食店等における無料Wi-Fiの整備促進										所属	
	【これまでの取組】	ジオターミナル、道の駅といった施設の新設のみならず、ニューホテルの恐竜ルーム改修と水芭蕉の内装リニューアルなどを実施し、周遊・滞在型観光の促進を図った。										商工観光・ ふるさと創生課
	【今後の方向性】	施設の長寿命化を進めていくとともに、「恐竜のまち」としての魅力をもっと発信できるような環境を整備し、周遊・滞在型観光を推進する。										
	【関連する個別計画】	勝山市地方創生総合戦略										
施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属	
	温泉センター水芭蕉の入込客数	H27	R02	目標	173,236人	176,321人	178,966人	179,414人	179,772人	未達成	商工観光・ ふるさと創生課	
		114,065人	179,772人	実績	118,600人	121,783人	124,031人	115,491人	38,855人			
	勝山ニューホテルの宿泊客数	H27	R02	目標	18,396人	18,659人	18,922人	19,184人	19,544人	未達成	商工観光・ ふるさと創生課	
17,173人		19,544人	実績	16,288人	21,340人	24,344人	27,050人	17,421人				
3 観光営業の強化による誘客の推進												
重点項目	① 首都圏からの誘客推進 ② 観光商談会等への積極的な参加 ③ 誘客のための観光パンフレットやポスターの充実 ④ ホームページやSNSによる適切かつ速やかな国内外への情報提供 ⑤ 福井観光コンベンションビューローと連携した人が多く集まる大会の誘致										所属	
	【これまでの取組】	観光情報を発信するWEBページを作成し、効果的な情報発信を行った。また、商談会の参加を通じて関西・関東圏の旅行会社へPRするなど、誘客活動を行った。										商工観光・ ふるさと創生課
	【今後の方向性】	勝山市観光まちづくり株式会社と協同して、今後も観光商談会へ参加するとともにコンベンション誘致に向けた営業活動を行うことで誘客を推進する。										
	【関連する個別計画】	なし										
施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属	
	年間の観光入込客数	H27	R02	目標	2,050,000人	2,100,000人	2,150,000人	2,200,000人	2,250,000人	未達成	商工観光・ ふるさと創生課	
2,032,804人	2,250,000人	実績	1,995,138人	2,176,517人	2,107,863人	2,215,601人	1,285,534人					

4 インバウンド観光の推進											
重点項目	① 越前加賀インバウンド推進機構と連携した海外からの誘客推進 ② 海外の旅行業者やマスコミへの積極的な営業活動の推進 ③ 案内看板やパンフレットの多言語表示などインバウンド観光推進に向けた環境整備 ④ 観光施設、宿泊施設、飲食店等における無料Wi-Fiの整備促進(再掲)										所属
	【これまでの取組】 越前加賀インバウンド推進機構での営業活動や、勝山市観光まちづくり(株)と連携した外国人向け体験コンテンツの造成を行い、インバウンド観光を推進した。										商工観光・ ふるさと創生課
	【今後の方向性】 勝山市単独よりも、周辺エリアで施策を展開する方が有効と考え、近隣市町と連携しながら、アフターコロナにおけるインバウンド誘客の準備を進めていく。										
	【関連する個別計画】 勝山市地方創生総合戦略										
施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
	外国人観光客宿泊数	H27 3,499人	R02 4,800人	目標 実績	3,600人 2,689人	3,900人 3,721人	4,200人 2,499人	4,500人 2,114人	4,800人 1,409人	未達成	商工観光・ ふるさと創生課

5 広域観光の展開による認知度向上											
重点項目	① 広域観光推進による市内での宿泊者増加 ② 広域的な認知度の向上によるブランド化の推進 ③ 自治体が連携したPRによる誘客の推進 ④ 広域的な周遊マップやパンフレットの充実										所属
	【これまでの取組】 奥越前観光連盟、環白山広域観光推進協議会、越前加賀インバウンド推進機構など、それぞれのエリア、設立趣旨に沿った観光誘客事業を展開し、認知度向上を図った。										商工観光・ ふるさと創生課
	【今後の方向性】 今後も連携を強化していきながら、広域観光ならではの事業施策を検討し、引き続きエリア全体を含めた認知度向上を図る。										
	【関連する個別計画】 勝山市地方創生総合戦略										
施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
	年間の市内宿泊者数	H27 80,195人	R02 85,000人	目標 実績	78,000人 78,199人	80,000人 82,647人	84,000人 91,890人	84,000人 101,579人	85,000人 57,330人	未達成	商工観光・ ふるさと創生課

第4章 美しい環境や景観の中で快適に暮らせるまちづくり

1 効率的で人にやさしい都市基盤の実現										
総括	【政策の基本的な考え方】 既存社会資本の集約化や適切な維持管理について、市民・事業者の理解や、地域の実情・ニーズ等に配慮した都市基盤の整備を推進する。									
	【総括の視点】 中心市街地の整備・住みやすく、災害に強いまちづくり・緑地公園の整備による市民の利活用促進									
	<p>・中心市街地におけるにぎわい創出のためのハード整備を進めてきたが、人口減少、少子高齢化が進む中、店主の高齢化、後継者不足などにより空き店舗が増加しているが、それらを活用する民間の活動が進んでいない。今後は、空き店舗の利活用をさらに積極的に促進していくとともに、核となる道路が未整備であるエリアについて整備を行い、住環境や防災力の向上を図る必要がある。道路、河川などの整備については、新規整備から維持管理に軸を置いた施策を進めていく必要がある。なお、道路改良・修繕、河川改修、砂防事業等については、引き続き地区要望等に基づき計画的に実施していく必要がある。</p> <p>・大蓮寺川バイパス工事をはじめとする浸水対策については、県への要望活動等を通じ事業が進捗している。今後も市民生活への支障が長引くことがないよう、要望活動を通じ早期完成を進める必要がある。</p> <p>・勝山市公園施設長寿命化計画に基づき、都市公園における老朽化した遊具の改修や修繕等を計画的に実施した。今後も計画に基づいた改修、修繕等を進めるが、人口減少、少子高齢化が進む中、利用頻度やニーズなどを踏まえたメリハリのある整備が必要となる。</p>									

1 まとまりのある都市構成と土地利用の推進											
重点項目	① 幹線道路沿いの土地利用促進 ② 今後の開発が見込まれる勝山インター周辺の環境と景観の保全 ③ 中部縦貫自動車道永平寺大野道路の開通効果を活かした土地利用の促進 ④ 大規模な集客施設の適正立地										所属
	【これまでの取組】 幹線道路沿い工業専用地域への企業進出支援を実施した。勝山インター周辺を特定用途制限地域に指定した。道の駅の整備と隣接地造成事業に着手した。勝山市立地適正化計画の策定と届出制度の運用を開始した。										都市建設課
	【今後の方向性】 これまでの取組の継続と現状を踏まえた勝山市都市計画マスタープラン及び勝山市景観計画の改定を行う。										
	【関連する個別計画】 勝山市都市計画マスタープラン 勝山市立地適正化計画										

2 道路網の整備											
重点項目	① 市道の道路改良事業の実施 ② 道路修繕工事の実施 ③ 中部縦貫自動車道早期全線開通に向けた要望活動と協力 ④ 他自治体と連携した国・県道の道路改良事業の要望活動と協力 ⑤ 橋梁長寿命化計画の更新と修繕工事の実施 ⑥ 街路樹管理計画に基づく街路樹の伐採										所属
	【これまでの取組】 国道等幹線道路の整備促進要望活動を行った。市道の改良事業等整備、計画的な維持修繕を行った。										都市建設課
	【今後の方向性】 これまでの取組の継続と現状を踏まえ、中部圏へのネットワークに向けた国県道の整備要望と、市財政の身の丈にあった市道の改良整備、維持管理計画の確立を図る。										
	【関連する個別計画】 公共施設等適正管理事業 個別施設計画、橋梁長寿命化修繕計画										
施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
	橋梁長寿命化計画に基づく修繕済橋梁数(平成26年度からの累計)	H27 2	R02 7	目標 実績	3 3	4 4	5 5	6 8	7 12	達成	都市建設課

3 公園緑地の整備

重点項目	① 各地区における(仮称)コミュニティセンターの整備にあわせた地域住民が憩える緑地の整備										所属
	② 都市公園リニューアル事業の実施(中央公園ほか)										都市建設課
	③ 定期的な調査結果を踏まえた公園施設長寿命化計画の更新と計画に基づく修繕工事の実施										
	④ 公園施設修繕工事実施										
⑤ かつやま恐竜の森(長尾山総合公園)の里山を活かした自然公園としての整備検討										都市建設課	
【これまでの取組】		職員等による点検結果を踏まえた公園施設長寿命化計画の見直しを行った。公園施設長寿命化計画に基づいた計画的な施設修繕を実施した。									
【今後の方向性】		点検結果を反映させた公園施設長寿命化計画に基づいた計画的な施設修繕を実施する。かつやま恐竜の森において今後増加する観光客を公園全体で受け入れ、勝山市の滞在型観光の推進を目的とし官民連携事業による施設整備を行う。									
【関連する個別計画】 勝山市公園施設長寿命化計画											

施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
公園長寿命化計画・公園施設修繕計画に基づく修繕済公園施設数(平成26年度からの累計)		H27	R02	目標	7	9	11	13	15	達成	都市建設課
		5	15	実績	6	8	11	21	29		
かつやま恐竜の森(長尾山総合公園)の年間入園者数		H27	R02	目標	92万人	94万人	96万人	98万人	100万人	未達成	都市建設課
		89.8万人	100万人	実績	90.1万人	80.1万人	93.8万人	92.4万人	35.9万人		

4 河川の整備

重点項目	① 計画的な河川整備に関すること										所属
	② 大蓮寺川改修事業(バイパス)の要望・協力										都市建設課
	③ 砂防事業の要望・協力										
	④ 水路改良事業										
【これまでの取組】		大蓮寺川改修事業・砂防事業共に県及び地元との調整を図り、円滑に事業を進めた。水路改良工事についても、区長要望に対応すると回答した路線は全て対応した。								都市建設課	
【今後の方向性】		引き続き県に継続して事業を進めるよう要望すると共に、事業着手時には県及び地元との調整を図る。大蓮寺川改修事業については、事業の進捗により通行規制を伴うため市ホームページ等で周知を図り、県と一体となって事業を進める。									
【関連する個別計画】 なし											

重点項目	⑤ 三谷川河川整備計画の実施										所属
	【これまでの取組】		調整池(3池)を築造し、現川改修工事及び大蓮寺バイパス整備工事を実施した。								上下水道課
	【今後の方向性】		県による大蓮寺川元線放水路工事が完成するまでに、残区間の大蓮寺バイパス整備工事及び現川改修工事を実施し完了させる。								
	【関連する個別計画】 なし										

施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
三谷川流域における10年に1度確率の降雨に対する浸水区域面積の削減		H27	R02	目標	35.58ha	35.58ha	35.58ha	35.58ha	0ha	未達成	上下水道課
		35.58ha	0ha	実績	35.58ha	35.58ha	35.58ha	35.58ha	35.58ha		

5 中心市街地の整備

重点項目	① 歴史的まちなみ景観の創出										所属
	② 中心市街地の魅力と活力ある空間づくり										都市建設課
	③ 中心市街地における空き地の有効活用										
	④ 消雪施設整備など冬でも安心して歩けるまちづくり										
【これまでの取組】		歴史的まちなみ景観の保全を目的とした建築物等の改修に対する補助金の交付を行った。中心市街地における消雪施設の整備を行った。								都市建設課	
【今後の方向性】		歴史的まちなみ景観を保全するための補助金の周知を行う。勝山市立地適正化計画に基づきコンパクトシティを推進していく。									
【関連する個別計画】 勝山市立地適正化計画											

施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
えちぜん鉄道勝山駅における年間乗降者数(定期以外)		H27	R02	目標	8.1万人	8.15万人	8.2万人	8.25万人	8.3万人	未達成	都市建設課
		7.9万人	8.3万人	実績	7.8万人	7.8万人	8.4万人	8.0万人	3.2万人		

2 人にやさしい交通体系の確立

【政策の基本的な考え方】	えちぜん鉄道を基軸とした、人と環境にやさしい公共交通体系を構築する。
【総括の視点】	市内公共交通体系の整備・公共交通機関の利用促進

・市内におけるコミュニティバスやえちぜん鉄道等の公共交通機関の利用者数は、近年、増加傾向にある。利用者の内訳を分析すると、通勤や通学、通院等を目的とした日常型利用者よりも県立恐竜博物館への観光等を目的とした非日常型利用者の割合が大きい。今後は、公共交通機関における通勤や通学、通院等を目的とした日常型利用者をさらに増加させる取り組みが必要である。少子高齢化による地域コミュニティの変化を見極めながら、ダイヤやバス停の設置場所など市民のニーズの把握と利用実績のさらなる検証を行い、市民がより利用しやすいバス路線の構築を進める必要がある。また、コミュニティバスの利用促進のため、時刻表作成サービスや高齢者対象のバスの乗り方教室等を実施していく必要がある。また、えちぜん鉄道の利用促進を目指し、沿線市町と連携した利用促進企画の立案や通勤、通学利用者へのPRを行う必要がある。

1 利用しやすいバス体系の整備と利用促進

重点項目	① 住民ニーズを取り込んだバス路線の見直し・効率化										所属
	② バス利用促進とそのPR										環境政策課
	【これまでの取組】		利用者の意見に基づき、新たなバス停の設置や高齢者を対象としたバスの乗り方教室を実施した。								
	【今後の方向性】		利用者ニーズを把握しバス路線の見直し等を随時行うとともに、マイ時刻表の作成などを推進しバスの利用促進を図る。								
【関連する個別計画】 公共交通計画(令和3年度策定予定)											

施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属	
					目標	実績	実績	実績	実績			実績
	市内バス年間利用人数	H27 110,917人	R02 103,000人を維持	目標 実績	103,000人を維持 117,878人	103,000人を維持 112,836人	103,000人を維持 135,955人	103,000人を維持 126,233人	103,000人を維持 58,246人	未達成	環境政策課	
2 乗りやすい鉄道の整備と利用促進												
重点項目	① えちぜん鉄道活性化連携協議会を中心とした、えちぜん鉄道への支援 ② 勝山駅舎およびテキ6の活用と機能の充実 ③ 「勝山市電車利用促進会議」を中心とした乗る運動の推進 ④ えち鉄サポーターズクラブへの加入促進 ⑤ 勝山の特色を活かした観光事業との連携 ⑥ 市内観光路線バスの効率的な活用 ⑦ えちぜん鉄道沿線市町と連携した利用促進事業の実施										所属	
	【これまでの取組】	活性化協議会で協議した支援を継続する中で利用促進を図った。なお、新型コロナウイルス感染症拡大による利用者数の大幅減少に関して、県及び沿線市町が協調して減収補填の支援を行った。									環境政策課	
	【今後の方向性】	令和3年度に各市町と連携して第3次支援スキームを策定、今後も支援を継続し利用促進を図る。										
	【関連する個別計画】	えちぜん鉄道交通圏地域交通計画										
施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属	
	えちぜん鉄道の勝山市内駅の年間利用者数	H27 171千人	R02 171千人	目標 実績	165千人 166.5千人	166.5千人 164.3千人	168千人 174.7千人	169.5千人 176.1千人	171千人 100.0千人	未達成	環境政策課	
3 環境や景観に配慮したまちの実現												
【政策の基本的な考え方】		市民・事業者・行政が協働した景観・環境の保全活動により循環型社会・低炭素社会の構築を推進する。										
【総括の視点】		市民・事業者・行政が協働した景観・環境の保全活動の実践・市民の主体的な環境保全への支援										
総括	<p>・広報やチラシ等を活用し、ごみの減量に向けた啓発を行っているが、ごみの減量、リサイクル率の向上が実現していない状況である。また、河川清掃イベント「クリーンアップ九頭竜川」や環境美化活動「かつやまをきれいにする運動」の取り組みについては、これまで多数の市民、企業等の参加がある。今後ごみの減量、リサイクル率の向上の実現をめざし、紙の分別の徹底、生ごみの水切り、食べ残しをなくす等の家庭での地道な取り組みを継続し、市民への広報啓発に努める一方で、大野・勝山地区行政事務組合、大野市、勝山市が連携した新たなごみ減量の取り組みについて研究する必要がある。また、「クリーンアップ九頭竜川」の実施の際には、外来植物の防除活動も併せて実施しているが、ごみを拾うだけではなく、より多くの市民が参加したくなるような仕掛けについて研究する必要がある。</p> <p>・市民が主体的に実践する「かつやまをきれいにする運動」の賛同団体が年々増加し、市民の環境保全に対する意識が高まっている。また、小中学校でのESDでは、外来種駆除や希少動植物保全などの取り組みを進めており、市内外から高く評価されている。今後はこれらの活動を全市民が主体となった総合的な環境保全活動となるよう、相互連携できるような働きかけをしていく必要がある。</p>											
1 循環型社会の構築												
重点項目	① ごみ分別の徹底 ② 集団回収の推進 ③ 各種団体等のリサイクル活動の推奨										所属	
	【これまでの取組】	ごみ減量化の取り組みをホームページや広報に掲載し、生ごみ処理機や古紙回収に対して補助金を交付した。食用廃油や携帯電話や充電式電池等の回収窓口を市役所に設け回収を実施した。									環境政策課	
	【今後の方向性】	ごみ減量化に向けた啓発活動を継続するとともに集団回収等の補助金制度を活用しごみの再資源化を促進する。										
	【関連する個別計画】	一般廃棄物処理計画										
施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属	
	年間のごみ排出量	H27 7,370t	R02 7,270t	目標 実績	7,350t 7,230t	7,330t 7,205t	7,310t 7,391t	7,290t 7,401t	7,270t 7,468t	未達成	環境政策課	
		H27 813g	R02 800g以下を維持	目標 実績	800g以下を維持 813g	800g以下を維持 823g	800g以下を維持 859g	800g以下を維持 872g	800g以下を維持 898g			
	ひとり1日当たりのごみの排出量	H27 813g	R02 800g以下を維持	目標 実績	800g以下を維持 813g	800g以下を維持 823g	800g以下を維持 859g	800g以下を維持 872g	800g以下を維持 898g	未達成	環境政策課	
	一般廃棄物のリサイクル率	H27 25.6%	R02 27.0%	目標 実績	26.0% 25.19%	26.5% 25.10%	27.0% 25.40%	27.0% 23.20%	27.0% 21.40%	未達成	環境政策課	
2 低炭素社会の構築												
重点項目	① 勝山市地球温暖化対策実行計画の推進 ② 公共施設におけるエネルギー使用量削減の推進 ③ ISO14001自己適合宣言の維持・推進										所属	
	【これまでの取組】	ISO14001に準拠し、主要施設でのエネルギー使用量を把握するなどし、使用量の削減を推進した。									環境政策課	
	【今後の方向性】	ISO14001に準拠した使用量の把握等を行い、引き続き公共施設のエネルギー使用量削減を図る。										
	【関連する個別計画】	勝山市地球温暖化対策実行計画										
	④ 新エネルギーの調査・研究											所属
		【これまでの取組】	小水力発電などを計画する事業者へ地元等の情報提供を行い、事業進捗を支援した。									ジオ・まち課 環境政策課
		【今後の方向性】	新エネルギーの情報収集を行い、勝山市で採用可能な事業の調査を行う。									
【関連する個別計画】	勝山市環境基本計画											

3 環境保全・保護、美化活動の推進

重点項目	① 不法投棄監視活動、公害監視等の実施 ② 市民が行う清掃活動への支援拡充 ③ かつやまをきれいにする運動の推進 ④ 環境にやさしいイベントの推進 ⑤ 環境活動に優れた団体等の表彰	所属								
	【これまでの取組】	奥越健康福祉センターとの合同パトロールを定期的に行い、不法投棄箇所に監視カメラを設置して監視等を行った。クリーンアップ九頭竜川をはじめ、市民の清掃活動の支援を継続的に行い環境美化活動の意識向上を図った。								
	【今後の方向性】	関係機関と連携した定期的な不法投棄監視パトロールを実施する。また、市民の行う清掃活動等の支援を継続して実施する。								
	【関連する個別計画】	なし								
重点項目	⑥ 学校等による環境学習、環境活動の推進 ⑦ 生態系保護、保全活動の推進(希少動植物の保全と外来種の駆除活動等)	所属								
	【これまでの取組】	のぞみフェスタと環境フォーラムの統合実施を行い、幅広い世代層への周知に取り組んだ。								
	【今後の方向性】	さらに多くの方に保全活動を知ってもらうようフォーラム等を開催し、取り組みを周知する。								
	【関連する個別計画】	第2次勝山市環境基本計画								

施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
市内の希少動植物保全活動と外来種駆除活動の実施件数		H27	R02	目標	30件	31件	32件	33件	34件	未達成	ジオパーク・まちづくり課
		21件	34件	実績	30件	22件	33件	33件	0件		

4 景観形成の推進

重点項目	① 勝山市老朽危険空き家解体事業の推進 ② 良好な視点場の整備と景観の保全 ③ 屋外広告物禁止区域の拡大・規制強化と不適合となる広告物の対応 ④ 地域の景観づくり推進事業による特定景観計画区域 指定の促進 ⑤ 歴史的まちなみ景観創出事業の推進 ⑥ 大規模行為の届け出制度 による指導助言	所属								
	【これまでの取組】	勝山市景観計画に基づいた届出の受理と改善指導を行った。福井県屋外広告物条例に基づき不適合案件に対する改善指導を行った。								
	【今後の方向性】	さらなる景観の保全を目的とした景観計画の改定、屋外広告物の不適合案件に対する改善などにより景観形成を推進していく。								
	【関連する個別計画】	勝山市景観計画 福井県屋外広告物条例								

施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
「勝山市歴史的まちなみ景観創出事業補助金」支援件数(平成23年度からの累計)		H27	R02	目標	67件	72件	77件	82件	87件	未達成	都市建設課
		62件	87件	実績	69件	70件	74件	75件	76件		
自家用および案内広告物、一般広告物の改善数(平成24年度からの累計)		H27	R02	目標	30件	35件	40件	45件	50件	達成	都市建設課
		28件	50件	実績	31件	39件	43件	51件	55件		
景観に関する地域のルールづくり箇所数(特定景観計画区域の指定数)		H27	R02	目標	—	3地区(区域)	3地区(区域)	4地区(区域)	4地区(区域)	未達成	都市建設課
		2地区(区域)	4地区(区域)	実績	2地区(区域)	2地区(区域)	2地区(区域)	2地区(区域)	2地区(区域)		

4 快適で雪に強い定住環境の実現

【政策の基本的な考え方】	一年を通じて住みやすい環境を実現するため、質の高い住環境の整備、雪に強いまちづくりを実現するため、以下の視点に立ち取り組みを進めた。
【総括の視点】	雪に強く、質の高い住環境の整備・除雪体制の充実・地域ぐるみ除雪体制への支援・利雪の促進・上下水道の運営基盤強化

総括	<p>・公営住宅の維持管理等については、住居者のニーズを取り入れながら居住環境の整備に努めている。今後も、勝山市公営住宅等長寿命化計画に基づき適正な維持管理に努めていくほか、耐震対策がされていない木造市営住宅の居住者に対し、鉄筋住宅への住み替えを誘導していく必要がある。また、一般住宅においては、耐雪型住宅への新たな補助事業の制度設計を行う必要がある。</p> <p>・道路除雪については、直営・民間業者において豪雪時を想定した体制はすでに構築されている。また、市所有の老朽化した除雪車については計画的に更新を進めている。さらには狭小路線等の消雪設備の整備を進めており、水量が確保できる箇所は既設水路を流雪溝として改修している。現在、雪押し場の確保や既存消雪装置の老朽化が課題となっているが、引き続き適正な体制のもと、市民、地域の協力もいただきながら対応していく必要がある。</p> <p>・個人家屋の除雪については、少子高齢化により自助の低下が深刻な課題となっている。今後、高齢、障害等により、屋根雪下ろし、家屋周辺除雪が困難な住民に対し、地域の共助機能構築に対する支援をさらに強化していく必要がある。</p> <p>・「勝山市雪氷熱エネルギー利用促進協議会」が中心となり、これまで雪室貯蔵による各種実証実験、「奥越前かつやま雪室」の商標登録を行うなど、雪を利活用した取り組みを積極的に進めてきた。現在は、「雪室ブランド推進会議」に組織名を変更し、雪室商品のブランド化を目的とした活動を展開している。今後は、道の駅への雪室商品の出品のほか、新たな商品開発などを通じた産業創出を進める必要がある。また、雪室ブランド力の強化と積極的なPRを進め、同組織が将来的に自立するための支援を進めていく必要がある。</p> <p>・上下水道事業については、人口減少等による料金・使用料収入の減少や、施設・管路の老朽化等に伴う維持管理および更新費用の増大により、事業の運営および経営は厳しい状況にある。施設・管路の適切な維持管理および効率的な改築・更新に当たっては、施設等の現状を的確に把握し、中長期的な視点に立ち計画的に進めていく必要がある。また、将来にわたって持続可能な運営を確保するために、適正な事業運営と料金・使用料の改定を含めた経営基盤の強化が必要である。なお、上水道については、豪雪時の地下水不足等による給水制限を招くことのないよう、ハード・ソフト両面から事前の対策を講じていく必要がある。</p>
----	--

1 質の高い住環境の整備											
重点項目	① 市営住宅の整備 ② 木造市営住宅の集約 ③ 木造住宅耐震診断促進事業、木造住宅耐震改修促進事業の推進 ④ 屋根融雪設備設置への支援										所属
	【これまでの取組】 旭住宅の浴槽設置、トイレ洋式化による住環境改善、木造住宅入居者への個別訪問を行った。民間住宅の耐震化、融雪設備設置のPRを推進した。										都市建設課
	【今後の方向性】 木造市営住宅の集約化を促進する。民間住宅の克雪化に向けた井戸水融雪設備の設置補助の検討を行う。										
	【関連する個別計画】 勝山市公営住宅等長寿命化計画										
施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
	市営住宅(全100戸)入居率(1年間の最高値)	H27	R02	目標	87%(87戸)	90%(90戸)	90%(90戸)	90%(90戸)	90%(90戸)	達成	都市建設課
		86%(86戸)	90%(90戸)	実績	85%(85戸)	89%(89戸)	91%(91戸)	91%(91戸)	92%(92戸)		
	定住住宅(全80戸)入居率(1年間の最高値)	H27	R02	目標	86%(69戸)	90%(72戸)	90%(72戸)	90%(72戸)	90%(72戸)	達成	都市建設課
88%(70戸)		90%(72戸)	実績	88%(70戸)	90%(72戸)	91%(73戸)	94%(75戸)	95%(76戸)			
老朽化した木造市営住宅の集約数(平成23年度からの累計)	H27	R02	目標	20戸	24戸	28戸	32戸	36戸	未達成	都市建設課	
	16戸	36戸	実績	19戸	23戸	26戸	26戸	26戸			
2 勝山市総合克雪・利雪・親雪計画の推進											
重点項目	① 道路における除排雪体制の拡充 ② 消雪施設の整備と維持管理 ③ 豪雪時の除雪体制の確保 ④ 簡易消雪設備の設置支援 ⑤ 流雪溝の整備 ⑥ 小型除雪機械による除雪への支援										所属
	【これまでの取組】 除雪体制の拡充に向け、安心・安全な生活道路の整備を行った。また通学路を中心に、除雪機械の充実、消雪設備の設置、流雪溝の整備等を行った。										都市建設課
	【今後の方向性】 豪雪時に対応した、除雪路線を見直し、県と連携したGPSによる位置情報システム導入による除雪体制の確保を行う。私道生活道路の除雪体制の確保を行う。										
	【関連する個別計画】 勝山市総合克雪・利雪・親雪計画										
重点項目	⑦ 農産物等の貯蔵による高付加価値化と地域ブランド化 ⑧ 雪を利用したイベントの検討										所属
	【これまでの取組】 雪室商品のブランド化を目的とした「勝山雪室ブランド推進会議」を新たに立ち上げ、各々が雪室商品の開発に取り組んだ。										ジオパーク・まちづくり課
	【今後の方向性】 雪室の魅力を体感でき、勝山市雪室のブランド化に資する雪室商品の開発を組織一丸となって進め、各所での販売を推進する。										
	【関連する個別計画】 勝山市総合克雪・利雪・親雪計画										
施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
	流雪溝の設備延長(平成23年度からの累計)	H27	R02	目標	840m	940m	1,040m	1,140m	1,240m	達成	都市建設課
		810m	1,240m	実績	927m	1,195m	1,350m	1,501m	1,714m		
	簡易消雪路線の整備延長(平成26年度からの累計)	H27	R02	目標	619m	689m	759m	829m	899m	達成	都市建設課
548.8m		899m	実績	802m	1,024m	1,024m	1,073m	1,073m			
3 水の供給システムの整備											
重点項目	① 簡易水道の上水道への統合推進 ② 効率的な施設・設備の改築更新 ③ 効率的な施設の維持管理 ④ 安定した事業の運営										所属
	【これまでの取組】 全10地区の簡易水道の上水道への統合を推進し、平成29年度までに完了した。水源地、配水池、浄水場における電気計装・機械設備類の更新、水道管の漏水調査及び修繕を実施し、安定した水道水の供給に取り組んだ。給水制限対策として、「安全」「強靱」「持続」の視点に留意し、既設井戸のさく井更新や洗浄による水源取水能力の回復を図った。安定した事業運営のため、平成24年度、平成29年度に上下水道料金制度審議会を開催し経営状況の検証を行った。										上下水道課
	【今後の方向性】 施設・管路の改築・更新に当たっては、水道施設等の現状を的確に把握し、中長期的な視点に立ち補助事業を活用し計画的な取り組みを進める。引き続き、施設設備、水道管の調査点検及び修繕を計画的に行い、適切な維持管理に努める。引き続き、定期的に上下水道料金制度審議会を開催し、経営状況の検証を行い、経営基盤の強化に努める。										
	【関連する個別計画】 勝山市水道事業変更基本計画										

4 水の処理システムの整備

重点項目	① 汚水処理施設(公共下水道、農業集落排水、浄化槽)の整備促進 ② 効率的な施設・設備の改築・更新(長寿命化 平成25年度～) ③ 効率的な施設の維持管理 ④ 汚水処理施設(公共下水道、農業集落排水、浄化槽)の水洗化促進 ⑤ 安定した事業の運営										所属
	【これまでの取組】	各資料№1	域内において施設・管渠の整備を実施し、汚水処理人口普及率を向上させた。 長き勝山浄化センターの機械設備等の更新工事及び耐震工事を実施した。 勝山浄化センター維持管理業務にかかる包括的民間委託を平成26年度に更新し、農業集落排水処理施設維持管理業務については、引き続き民間委託を行っている。 下水道への水洗化を促進するために、戸別訪問の実施や区長を通じたチラシ配布を行い、水洗化率の向上を図った。 安定した事業運営のため、平成24年度、平成29年度に上下水道料金制度審議会を開催し経営状況の検証を行った。								上下水道課
	【今後の方向性】	スtockマネジメント基本計画に基づき、計画的な改築・更新工事を実施する。 農集排の統合及び浄化センター内のし尿受入施設建設を進め、汚水処理の効率化を図る。 令和6年度から公営企業会計へ移行し、会計の透明化を図り、より一層効率的な運営に努める。 引き続き、定期的に上下水道料金制度審議会を開催し、経営状況の検証を行い、経営基盤の強化に努める。									
【関連する個別計画】勝山公共下水道事業計画											

施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
					目標	実績	目標	実績	目標		
汚水処理(公共下水道、農業集落排水、浄化槽)人口普及率		H27	R02	目標	97.5%	98.0%	98.5%	99.0%	99.5%	未達成	上下水道課
					97.2%	99.5%	実績	98.3%	98.2%		
水洗化率		H27	R02	目標	87.5%	88.5%	89.0%	89.5%	90.0%	未達成	上下水道課
					86.7%	90.0%	実績	86.7%	87.7%		

第5章 豊かな人間性とたくましさをもったひとを育むまちづくり

1 望ましい教育の実現

【政策の基本的な考え方】	少子化による児童生徒数の減少に対応した、より良い教育環境を実現するとともに、ふるさとへの誇りと愛着心をもった子供たちを家庭・学校・地域で育むことのできる環境づくりを推進する。
【総括の視点】	学校再編のあり方検討、対応・多様な力の基礎の育成・ふるさと教育の推進・家庭・学校・地域が協力した児童生徒の育成

総括	<p>・勝山市の小中学校の教育環境について、中学校については再編検討委員会から答申を得て市民への説明を行った。小学校については、適切な校舎等の維持管理に努めているが、老朽化による緊急的な修繕対応が増加傾向にあり、予算的、人的な負担増となっている。今後、少子化に対しどのような教育環境を整備していくことが、子ども達にとって最も望ましいか検討を継続する必要がある。中学校は、再編検討委員会の答申を得て、今後は勝山高校との連携を協議する中で、「中学校再編計画(案)」を策定し、市民・議会の合意を得て、再編を推進していく。小学校は、公共施設等管理計画等に基づき、中長期的な視野を持ち、施設の安全性、快適性を確保しながら、老朽化対策を進めるなど適正な維持管理に努める必要がある。</p> <p>・現在、新学習指導要領の導入に向けて、主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善が研究されている。年間2日間の指導主事学校訪問日における公開授業および市内小中学校で外部専門機関と連携した英語指導力向上事業による研究授業公開など、定期的に、授業研究会を実施し、授業力の向上を図ってきた。</p> <p>・道徳教育、人権教育に関わる公開授業、また、保護者を交えての情報モラルに関する研修会の開催など、心の教育にも多くの取り組みを行ってきた。</p> <p>・ICTを活用した授業実施に向けて、可動性の優れたタブレット端末を4校に導入した。</p> <p>・今後も、児童生徒の学力向上や教員の授業力向上を目指すとともに、道徳教育・人権教育については、家庭と学校との連携への意識を高めていく。外国語教育については、これまでの実績と研究をもとにコミュニケーション力を重視した外国語教育を継続していく。令和2年度に、全ての児童用・教師用タブレット端末導入を実施した。今後は、ICTを活用した授業研究をより一層進めていく必要がある。</p> <p>・これまで、恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークのフィールドを活用し、ESDを中核とした地域の特色を生かした取り組みを積極的に推進してきた。今後は、各地域の特色やジオパークの素材を生かし、体験活動を重視した歴史、文化、産業、自然、環境に関する学習を充実していく必要がある。また、各種研修会への参加促進やESD拠点校としての活動など、ユネスコスクールとしての取り組みを推進していく。さらに、小中学校の取り組みを高校においても継続して生かせるよう、中高連携を意識した取り組みも必要である。</p> <p>・青少年健全育成推進事業について、かつやまっ子応援プランに基づき、各地区かつやまっ子応援ネットワークを推進母体に家庭・学校・地域が連携し、青少年の自然体験、地区行事、世代間交流事業等を実施している。今後さらに、かつやまっ子応援プランを推進するための「7つのルール」を市民や関係団体に周知し活動に反映させていく必要がある。また、各地区の見守り隊の人員が減少、高齢化しているため組織の見直しが必要になっている。見守り隊のあり方について市民会議や学校、区長会等地区団体とも協議し、かつやまっ子応援ネットワーク等をベースとした組織づくりを検討する必要がある。</p>
----	--

1 教育環境の整備・充実

重点項目	① 中学校の再編方針決定と対応 ② 中学校再編方針を踏まえた小学校のあり方検討 ③ 幼稚園のあり方の検討と対応 ④ 大規模改修工事未実施校の工事と非構造部材の耐震化工事の実施 ⑤ 校務用コンピュータ、教育用コンピューターの計画的更新 ⑥ 電子黒板等の活用 ⑦ 時代に即したICT環境の整備と教育用コンテンツ等の整備 ⑧ 理科等教育設備の整備	所属
	【これまでの取組】 勝山市が地域ESD活動推進拠点に登録され、総合的な学習の時間を中心にESDの考え方を生かした環境教育やふるさと学習を推進できた。また地域SDGsと学校教育活動を結びつけることについて働きかけ、実践や次年度の計画への意識付けとすることができた。タブレット端末の整備が完了し、授業での活用について研究がスタートした。道徳授業の公開(授業参観日等)をし、いじめや人権問題を扱った授業にも力を入れた。	教育総務課
	【今後の方向性】 勝山市他課、外部機関と連携し、地域を題材にした学習とSDGsとのつながりを意識した取り組みをさらに推進していく。また、学習したことを発信する場を確保する。新学習指導要領のもとでの指導と評価を適切に行うことができているか点検を行い、改善を図る。タブレット端末の有効活用について研究を深め、地域・家庭と連携したネットトラブル防止と情報モラル教育を推進する。また、幼小中の連携を取りながら、スムーズな接続を支援する。	
【関連する個別計画】 なし		

施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
					進展なし	同左	同左	同左	中学校再編方針を踏まえて検討		
小学校再編について		H27	R02	目標	進展なし	同左	同左	同左	同左	未達成	教育総務課
		進展なし	中学校再編方針を踏まえて検討	実績	—	—	—	—	—		
中学校再編について		H27	R02	目標	—	—	検討委員会の立ち上げ	方針決定	前年度に決定した方針に基づき対応	未達成	教育総務課
		—	前年度に決定した方針に基づき対応	実績	—	—	検討委員会設置	—	—		
各小中学校の授業日数に占めるICT機器を活用した日数の割合		H27	R02	目標	70.0%	75.0%	80.0%	85.0%	90.0%	未達成	教育総務課
		—	90.0%	実績	70.0%	84.4%	87.0%	81.0%	73.6%		

2 心豊かでたくましい児童・生徒を育てる学校教育の充実

重点項目	① 基礎的・基本的な知識と技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成、一人ひとりに応じた教育の充実につながる授業の改善 ② 環境教育やふるさと教育等を柱としたESDの推進 ③ 教育活動全体を通じた道徳教育の推進 ④ 保育園・幼稚園・小学校・中学校相互の交流・連携・接続の取組みの充実 ⑤ 特色ある学校づくりや自主的、自立的な学校運営実現のための保護者や地域との連携 ⑥ 教育成果が向上する学習環境の充実	所属
	【これまでの取組】 勝山市が地域ESD活動推進拠点に登録され、総合的な学習の時間を中心にESDの考え方を生かした環境教育やふるさと学習を推進できた。また地域SDGsと学校教育活動を結びつけることについて働きかけ、実践や次年度の計画への意識付けとすることができた。タブレット端末の整備が完了し、授業での活用について研究がスタートした。道徳授業の公開(授業参観日等)をし、いじめや人権問題を扱った授業にも力を入れた。	教育総務課
	【今後の方向性】 勝山市他課、外部機関と連携し、地域を題材にした学習とSDGsとのつながりを意識した取り組みをさらに推進していく。また、学習したことを発信する場を確保する。新学習指導要領のもとでの指導と評価を適切に行うことができているか点検を行い、改善を図る。タブレット端末の有効活用について研究を深め、地域・家庭と連携したネットトラブル防止と情報モラル教育を推進する。また、幼小中の連携を取りながら、スムーズな接続を支援する。	
【関連する個別計画】 なし		

施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
					小学5年生対象 1.45 中学2年生対象 1.00	小学5年生対象 1.45 中学2年生対象 1.02	小学5年生対象 1.45 中学2年生対象 1.04	小学5年生対象 1.46 中学2年生対象 1.07	小学5年生対象 1.46 中学2年生対象 1.10		
授業のわかりやすさ指標 ※施策指標「授業のわかりやすさ指標」:毎年実施している生徒対象学校生活アンケートにおいて、「授業がよく分かるか」という質問に対し、大変当てはまるを2点、大体当てはまるを1点、あまり当てはまらないを-1点、ぜんぜん当てはまらないを-2点として算出。		H27	R02	目標	小学5年生対象 1.45 中学2年生対象 1.00	小学5年生対象 1.45 中学2年生対象 1.02	小学5年生対象 1.45 中学2年生対象 1.04	小学5年生対象 1.46 中学2年生対象 1.07	小学5年生対象 1.46 中学2年生対象 1.10	達成	教育総務課
		小学5年生対象 1.44 中学2年生対象 0.96	小学5年生対象 1.46 中学2年生対象 1.10	実績	小学5年生対象 1.17 中学2年生対象 1.01	小学5年生対象 1.45 中学2年生対象 1.04	小学5年生対象 1.43 中学2年生対象 1.08	小学5年生対象 1.43 中学2年生対象 1.01	小学5年生対象 1.60 中学2年生対象 1.33		

3 「生きる力」を育む市民活動の展開

重点項目	① かつやまっ子応援ネットワークを推進母体とする活動の展開	所属 生涯学習・スポーツ課
	② 地域行事に子どもが参加できる環境づくり	
	③ 子どもの安全安心活動の周知と推進	
	【これまでの取組】 各地区(9地区)のかつやまっ子応援ネットワークを中心に、地域・学校・家庭が連携し、自然体験・地区行事・世代間交流等を展開した。	
	【今後の方向性】 地区のみならず市子連やスポ少等の団体等にも周知を行い、活動を広げ、青少年の健全な育成を展開する。	
	【関連する個別計画】 なし	

内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
児童・生徒の地域行事への参加指標	H27	R02	目標	小5 1.58 中2 0.70	小5 1.58 中2 0.80	小5 1.59 中2 0.90	小5 1.59 中2 1.00	小5 1.60 中2 1.10	未達成	生涯学習・スポーツ課
※施策指標「児童・生徒の地域行事への参加指標」:毎年実施している生徒対象学校生活アンケートにおいて、「地域行事に参加しているか」という質問に対し、大変当てはまるを2点、大体あてはまるを1点、あまり当てはまらないを-1点、ぜんぜんあてはまらないを-2点として算出。	小5 1.57 中2 0.64	小5 1.60 中2 1.10	実績	小5 1.37 中2 0.56	小5 1.50 中2 0.76	小5 1.45 中2 0.63	小5 1.58 中2 0.63	小5 1.26 中2 0.77		

2 歴史遺産を活かしたまちづくりの実現

【政策の基本的な考え方】	勝山市の豊かな自然環境の中で培われてきた歴史遺産の積極的な保存・整備・活用により、市民がまちづくりに関わることのできる環境整備を推進する。
【総括の視点】	白山平泉寺旧境内、三室遺跡、旧木下家住宅等の保存・整備・活用

総括
・白山平泉寺旧境内は発掘地の整備が進み、ガイドンス施設の白山平泉寺歴史探遊館まほろばが整備された。令和元年5月には、白山平泉寺と勝山城下町が一乗谷朝倉遺跡とともに日本遺産に認定された。また、国重要文化財の旧木下家住宅は、4か年にわたる保存修理事業が完了し、平成31年4月から公開されるなど、まちづくりや観光資源としての素地が整いつつある。白山平泉寺や旧木下家を中心とする国指定文化財の保存整備はある程度完了したが、今後は地域住民や市民が関わった積極的な保存・活用の取り組みが求められる。また、その他の重要な歴史遺産について、今後どのように保存活用していくのか、学校教育と連携しながら進めていく必要がある。文化財を観光資源として活用する際には、経済的利益を文化財保護や継承につなげる仕組みづくりが求められる。さらに、世界遺産登録推進や日本遺産、歴史的な交流をもとにした他地域との連携により、関係人口の増加、情報発信の効果を向上させる必要がある。

1 国史跡白山平泉寺旧境内を中核にすえたまちづくり

重点項目	① 国史跡白山平泉寺旧境内の継続的な発掘調査の実施	所属 史蹟・文化課
	② 白山平泉寺大門周辺観光振興拠点を活用した白山平泉寺歴史探遊館まほろばの認知度向上と来館者増加	
	③ 重要遺構の公有地化推進	
	④ 世界遺産や日本遺産への登録推進	
	⑤ 白山(越前)禅定道の整備、活用	
	【これまでの取組】 平成20年度から24年度にわたり文化庁の補助で発掘地の整備やガイドンス施設の建設を行った。令和元年5月には、平泉寺が日本遺産に認定された。	
	【今後の方向性】 日本遺産登録をPRし、白山平泉寺歴史探遊館まほろばを中心とした白山平泉寺旧境内を活かしたまちづくりを推進する。	
	【関連する個別計画】 史跡白山平泉寺旧境内保存管理計画書、史跡白山平泉寺旧境内整備基本計画書	

内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
白山平泉寺歴史探遊館まほろばの年間来館者数	H27	R02	目標	32,000人	34,000人	36,000人	38,000人	40,000人	未達成	史蹟・文化課
	30,079人	40,000人	実績	28,789人	70,078人	45,049人	46,374人	20,647人		
学術研究書、新聞報道等への国史跡白山平泉寺旧境内関連の登載件数(H23からの累計)	H27	R02	目標	160件	190件	220件	250件	280件	達成	史蹟・文化課
	137件	280件	実績	218件	261件	280件	309件	327件		

2 歴史遺産の保護・活用の推進

重点項目	① 歴史遺産の保護、保存、活用の推進	所属 史蹟・文化課
	② 国重要文化財旧木下家住宅の保存修理と管理・活用の推進	
	③ 村岡山城跡の文化財指定および保存と活用の推進	
	④ 勝山城博物館との連携事業数の拡大	
	⑤ 勝山の歴史人物の紹介	
	⑥ 県指定文化財三室遺跡の保存と活用の推進	
	⑦ 恐竜渓谷100万人(恐竜キッズランド)構想関連事業の推進	
	【これまでの取組】 重文の旧木下家住宅は、本格的な修理工事と防災工事等が完了し一般公開をしている。村岡山城は市の文化財に指定した。勝山城博物館との連携共催展は26年度より開始した。	
	【今後の方向性】 令和2年度と3年度で策定中の「勝山市文化財保存活用地域計画」に従い、各種取り組みを推進する。	
	【関連する個別計画】 重要文化財 旧木下家住宅保存活用計画(改訂版)、勝山市文化財保存活用地域計画	

内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
国重要文化財旧木下家住宅の見学者数	H27	R02	目標	200人	200人	200人	200人	600人	達成	史蹟・文化課
	500人	600人	実績	237人	299人	490人	3,156人	1,114人		

3 いきいきと学ぶ生涯学習の推進

【政策の基本的な考え方】		市民一人ひとりが、生涯にわたって主体的に学び、行動するため、各種学習機会の提供を推進する。											
【総括の視点】		各種生涯学習の機会の提供・市立図書館の機能充実											
総括	<p>・市民総合大学、さわやか大学および公民館学級のほか、ジオパークを舞台にした自然体験学習会(観察会、登山等)を開催し、市民に生涯学習の場を提供している。小中学校に対するジオパーク学習や市民向けのジオパーク講座は活発に行われていることから、各地域の団体等や公民館とも連携を深め、さらに多くの市民にジオパークを浸透させていく必要がある。引き続き、地域の特色を活かしたテーマのほか、自然体験、男女共同参画、国際交流、くらしの礼儀作法など、それぞれの地域課題等に関係した学習内容を充実させ参加者を増やす工夫が必要である。</p> <p>・市立図書館については、社会情勢や生活に役立つ題材をテーマとし、関連図書を集めたほか、庁内関係課と連携し政策や業務に関連した企画も実施してきた。また、ブックスタートおよび学校図書館の整備にも取り組み、読書活動の推進に努めた。今後も市民ニーズを重視しつつ生活に役立つ、また問題解決につながる図書資料の充実に努めるとともに、ゆめおーれ勝山等隣接の施設とも連携した企画展を開催するなど、市民に興味を持ってもらえる企画を行い、図書館機能の充実に努める。</p>												
	1 学習機会と施設の充実												
重点項目	① 市民総合大学の充実										所属		
	② さわやか大学の充実										生涯学習・スポーツ課		
	③ 公民館での学級、講座の充実												
	④ 学習の場、研修の場である市民会館、教育会館、生涯学習センター「友楽喜」、公民館施設の整備と充実												
【これまでの取組】		一般教養・ジオパーク・自然・環境・健康・福祉等、多種多様な講座を開講し学習機会を充実した。											
【今後の方向性】		市民ニーズを把握し、市民の学ぶ意欲、知的好奇心に応える学習機会を充実するとともに、講座内容を広く周知していく。											
【関連する個別計画】		なし											
施策指標	内容			改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
	市民総合大学の受講者数			H27	R02	目標	5,000人	5,100人	5,200人	5,300人	5,400人	未達成	生涯学習・スポーツ課
				—	5,400人	実績	5,938人	5,274人	4,576人	4,647人	1,631人		
	公民館での学級・講座への参加者数			H27	R02	目標	3,700人	3,800人	3,900人	4,000人	4,100人	未達成	生涯学習・スポーツ課
			3,589人	4,100人	実績	3,204人	3,327人	3,533人	3,833人	885人			
2 生涯学習の推進に向けた人材の育成													
重点項目	① 地域資源や人材を活かした郷土料理教室開催等の学習活動の支援										所属		
	② 勝山市青年団体連絡会や勝山市壮年連絡協議会など、各種団体が行う事業への支援										生涯学習・スポーツ課		
	③ 生涯学習人材バンクの普及・活用												
	④ 指導者やリーダー育成講座の開催												
【これまでの取組】		各種団体・学習活動への支援や、人材バンク登録者の発掘、養成講座等を通じて人材育成に取り組んだ。											
【今後の方向性】		引き続き各種団体や学習活動への支援を継続し、人材バンク登録者の発掘・リーダー養成講座等を通じて、人材育成に取り組む。											
【関連する個別計画】		なし											
施策指標	内容			改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
	指導者やリーダーの育成講座参加者数(平成23年度からの累計)			H27	R02	目標	140人	220人	300人	380人	460人	達成	生涯学習・スポーツ課
				60人	460人	実績	159人	284人	465人	465人	465人		
	生涯学習人材バンク利用件数			H27	R02	目標	35件	40件	45件	50件	55件	未達成	生涯学習・スポーツ課
			32件	55件	実績	23件	22件	20件	27件	2件			
3 自然体験学習・ジオパーク学習の推進													
重点項目	① 自然観察会の充実										所属		
	② 水芭蕉探勝登山等の充実										ジオパークまちづくり課		
	③ 恐竜を活用したコンクール等の充実によるジオパークのPR												
	④ カヌー教室開催など、水辺に親しむ事業の充実												
	⑤ 太陽光やリサイクル、間伐材を利用した環境の意識向上のための学習事業の推進												
	【これまでの取組】		ジオサイト、自然遺産を学ぶ自然観察会の実施や幼児・小学生を対象とした恐竜図画コンクール「恐竜を描こう」を平成20年から取り組んできた。										
【今後の方向性】		引き続きジオサイト、自然遺産を学ぶ自然観察会の実施すると共に、恐竜を活用した図画コンクールや絵画展を行い自然体験学習やジオパーク学習を推進する。											
【関連する個別計画】		恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進実施計画											
⑥ ジオパーク市民講演会やジオパークセミナー等による市民への学習機会の提供											所属		
⑦ 学校教育におけるジオパーク学習の実施											ジオパークまちづくり課		
【これまでの取組】		小中学校、県立恐竜博物館と連携し、小中学生にジオパーク学習や自然体験活動を行うとともに、さわやか大学をはじめとした市民向けの学習講座・セミナー等を開催し、ジオパーク学習を推進した。											
【今後の方向性】		引き続き関係機関と連携しながら、学生から高齢者まで世代に応じた切れ目ないジオパーク学習や自然体験活動、学習講座・セミナー等の実施に取り組み、ジオパーク学習を推進する。											
【関連する個別計画】		恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進実施計画											

施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
		自然体験学習等への参加者数(平成23年度からの累計)	H27 7,166人	R02 14,000人	目標 実績	8,000人 8,586人	9,500人 10,073人	11,000人 11,478人	12,500人 12,939人	14,000人 14,033人	達成
	ジオパーク学習会への参加者数(平成23年度からの累計)	H27 1,800人	R02 4,000人	目標 実績	2,000人 2,949人	2,500人 3,695人	3,000人 4,443人	3,500人 5,679人	4,000人 6,659人	達成	ジオパーク まちづくり課
	ジオパーク学習会への子どもの参加者比率	H27 33.9%	R02 50%以上	目標 実績	34%以上 37.1%	35%以上 46.5%	40%以上 53.1%	45%以上 55.3%	50%以上 93.4%	達成	ジオパーク まちづくり課
4 図書館機能の充実											
重点項目	① 市民ニーズに対応した図書館資料の充実 ② 利用者に対するレファレンス等の情報サービスの推進 ③ はたや記念館ゆめおーれ勝山との連携による利用促進 ④ 図書館設備の維持・管理 ⑤ 生活に役立つ話題を取り上げた企画コーナーの設置 ⑥ 子どもの読書活動推進計画の推進 ⑦ 公民館との効果的な連携										所属
	【これまでの取組】 市民ニーズに対応した資料収集のほか、庁内各課やはたや記念館ゆめおーれ勝山と連携した企画展を開催し、相乗効果による利用促進に努めた。また、ブックスタートの実施や学校図書館の整備にも取り組み、子どもの読書活動を推進した。										生涯学習・ スポーツ課
	【今後の方向性】 今後も取組を継続し、図書館機能を充実する。また、ブックスタート参加の親子を継続的な図書館利用者へと繋げられるような方策を検討し、新規の利用者を増やす。										
	【関連する個別計画】 勝山市子ども読書活動推進計画										
施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
	市立図書館への年間入館者数	H27 91,012人	R02 92,000人以上維持	目標 実績	92,000人以上維持 87,081人	92,000人以上維持 80,667人	92,000人以上維持 82,633人	92,000人以上維持 84,035人	92,000人以上維持 56,579人	未達成	生涯学習・ スポーツ課
4 豊かな心と感性を育む文化芸術の振興											
【政策の基本的な考え方】		地域に伝わる伝統文化を次世代へ保存・継承する活動を支援することにより、地域の活性化を図る。									
【総括の視点】		地域の伝統文化の保存・継承への支援・市民の文化芸術活動への支援									
総括	<p>・郷土芸能施設の整備や伝統文化の保存・継承への支援については、市や民間財団等の補助事業の情報を伝達し、活用を奨励している。また、地域の歴史や伝統文化に関する講座を開催している。伝統文化継承者の高齢化、後継者不足が課題となっている。青少年育成勝山市民会議で伝統文化に関する子どもたちへの体験型学習を積極的に推進したり、市民総合大学や公民館学級でも、伝統芸能の講座を継続し、関心が高まるよう働きかけていく必要がある。</p> <p>・市民の文化活動の発表の場となっている市民総合文化祭は人材不足や高齢化等が進み、参加団体も横ばい状態となっている。また、コンサートなど市民が一流の文化芸術に触れる機会はあまり多くない。市民総合文化祭については、若者や子どもたちの参加が増えるような時代に合わせた内容も盛り込み、広く市民の興味を喚起させるよう工夫する必要がある。</p> <p>そのため、若手の音楽家や活発に活動する民間団体を支援する取り組みが必要である。</p>										
1 伝統文化の保存・継承											
重点項目	① 郷土芸能施設の整備・充実 ② 地域に残る伝統文化の保存・継承への支援										所属
	【これまでの取組】 市及び各種団体において、伝統文化の講座や体験型学習を継続して実施し、継承に取り組んだ。										史蹟・文化課
	【今後の方向性】 伝統文化の継承者不足が課題となる中で、子供たちが伝統文化に触れる機会を作り、担い手を育成し、伝統文化の保存・継承に取り組む。										
	【関連する個別計画】 なし										
施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
	伝統文化継承講座への参加者数(平成27年度からの累計)	H27 585人	R02 1,135人	目標 実績	695人 753人	805人 1,027人	915人 1,397人	1,025人 2,775人	1,135人 3,136人	達成	史蹟・文化課
2 文化芸術活動の充実											
重点項目	① 市民総合文化祭の充実および参加団体拡充の検討 ② 芸術劇場や文化講演会の充実 ③ 文化団体の育成・支援 ④ 国・県文化芸術事業の活用 ⑤ 市民の自主的な文化芸術活動への支援										所属
	【これまでの取組】 芸術劇場、文化講演会及び市民総合文化祭を開催し、各地区の文化祭などに支援を行い、文化芸術活動を積極的に行ってきた。										史蹟・文化課
	【今後の方向性】 高齢化が進む勝山市文化協会への存続に向けた支援のほか、若手芸術家や団体への活動の場の提供や支援に取り組む。										
	【関連する個別計画】 なし										
施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
	市民総合文化祭の参加団体数	H27 77団体	R02 85団体を維持	目標 実績	85団体を維持 88団体・個人	85団体を維持 89団体・個人	85団体を維持 85団体・個人	85団体を維持 69団体・個人	85団体を維持 20団体・個人	未達成	史蹟・文化課

5 いきいきと輝くスポーツの振興

【政策の基本的な考え方】 市民の誰もが気軽にいきいきとスポーツに親しむことのできる環境づくりを推進する。

【総括の視点】 誰もが気軽にスポーツに親しめる機会の提供

総括
・市内の体育施設については、勝山市体育館ジオアリーナが完成し、市営体育館、勤労青少年体育センター、武道場、弓道場を廃止。B&G海洋センターにアリーナ・武道場・弓道場・多目的広場を集約した。今後は、各地区にある社会体育施設を含め、市全体として効率的に体育施設が利活用できるよう進めていく必要がある。また、ニュースポーツ祭やスポーツ少年団交流フェス、スポーツ推進委員による各地区・親子行事などでのニュースポーツ体験会を通じて、気軽に参加できるスポーツを推進している。今後も、各地区におけるニュースポーツの紹介など、あらゆる機会を通じてスポーツの楽しさを広く市民に普及していく必要がある。

1 競技スポーツと生涯スポーツの推進

重点項目	① 競技力向上に向けたトップアスリートによる指導	所属 生涯学習・スポーツ課
	② ジュニアから一般までの一貫指導体制の強化	
	③ スポーツ推進委員の育成	
	④ スポーツイベント等の充実による市民のスポーツ意識の高揚	
⑤ 勝山恐竜クロカンマラソン大会充実による対外的な勝山市のPR		
⑥ 白山禅定道トレイルマラソン等への支援		
⑦ ニュースポーツの講習会や大会の実施による理解促進		
⑧ スポーツ少年団の育成・支援		
⑨ 市民体育大会の充実		
⑩ 市民の自主的なスポーツ活動への支援		
【これまでの取組】	福井しあわせ元気国体にあわせて競技力向上を図った。また、スポーツイベントや講習会などを開催してスポーツを楽しむ機会を提供してきた。	
【今後の方向性】	福井県やスポーツ協会と連携して国体後も引き続き選手強化を図るとともに、マラソン大会やニュースポーツ講習会などスポーツに親しむ機会を提供する。	
【関連する個別計画】	なし	

施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
勝山恐竜クロカンマラソンへの参加者数		H27	R02	目標	—	2,400人	2,600人	2,800人	3,000人	未達成	生涯学習・スポーツ課
		2,095人	3,000人	実績	1,894人	1,687人	1,335人	0人	0人		

2 体育施設の整備・充実

重点項目	① 勝山市体育館「ジオアリーナ」施設の充実	所属 生涯学習・スポーツ課	
	② 既存体育施設の再配置、再整備と利用促進		
	【これまでの取組】		トレーニング機器を順次増設するなど、利便性を高めてきた。武道館や勤労青少年トレーニングセンターの取り壊しなど、施設の集約化を図った。
	【今後の方向性】		老朽化している箇所を計画的に改修するなどして施設の適正な管理に努めるとともに、利用者のニーズに合わせて利便性を高め稼働率の利用向上を図る。
【関連する個別計画】	なし		

施策指標	内容	改定時値	目標値		H28	H29	H30	R01	R02	評価	所属
勝山市体育館「ジオアリーナ」の一般利用人数(ランニングコース)		H27	R02	目標	8,000人	12,000人	13,000人	14,000人	15,000人	達成	生涯学習・スポーツ課
		—	15,000人	実績	10,116人	18,743人	19,846人	22,720人	15,208人		
勝山市体育館「ジオアリーナ」の一般利用人数(トレーニングルーム)		H27	R02	目標	9,700人	14,000人	15,000人	16,000人	17,000人	未達成	生涯学習・スポーツ課
		—	17,000人	実績	10,541人	16,993人	19,620人	22,629人	8,883人		

3 平成30年国民体育大会の開催

重点項目	① 平成29年度のバドミントン競技とクレール射撃競技のプレ大会	所属 生涯学習・スポーツ課
	② 第73回国民体育大会および第18回全国障害者スポーツ大会の開催	
	③ 国民体育大会に開催に向けた選手の強化と指導者の育成、ボランティアの養成	
	【これまでの取組】	
【今後の方向性】	—	
【関連する個別計画】	なし	